

令和元年 第3回教育委員会定例会議 会議録

1 日 時 令和元年7月30日(火)
開会 15時30分
閉会 19時45分

2 会 場 金沢市庁舎 7階 第3委員会室

3 出席委員(7名)

教 育 長	野 口 弘
教 育 委 員	田 邊 俊 治
〃	早 川 芳 子
〃	岡 能 久
〃	大 島 淳 光
〃	丸 山 章 子
〃	木 村 陽 子

事務局	教育次長(兼)学校教育部長	高 村 政 博 (除く議案第13号)
	担当部長(兼)教育総務課長	加 藤 弘 行 (除く議案第13号)
	教育総務課課長補佐	松 田 潤一郎 (除く議案第13号)
	教育施設等整備室長	大 壁 永 典 (除く議案第13号)
	担当部長(兼)学校職員課長	羽 場 政 彦 (除く議案第13号)
	学校職員課担当課長・管理主事(兼)課長補佐	田 村 創 (除く議案第13号)
	担当部長(兼)学校指導課長	寺 井 義 春
	学校指導課担当課長(兼)課長補佐	青 山 雅 幸
	学校指導課主席指導主事	貞 廣 賢 了
	市立工業高校長	小 酒 正 明 (除く議案第13号)
	市立工業高校事務局長	新 出 光 昭 (除く議案第13号)
	生涯学習部長	中 坂 暢 江 (除く議案第13号)
	生涯学習課長	村 田 英 彦 (除く議案第13号)
	図書館総務課長	池 田 光 穂
	(兼)玉川図書館長	(除く議案第13号)
	(兼)近世史料館長、城北分館長	
	教育プラザ総括施設長	松 本 季 之
	(兼)地域教育センター所長	(除く議案第13号)

研修相談センター所長

熊谷 有紀子
(除く議案第13号)

金沢市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会
委員長

松原 道男
(限る議案第13号)

副委員長

加藤 隆弘
(限る議案第13号)

教科用図書調査委員

(限る議案第13号)

5 案件

非 議案第13号 令和2年度使用小学校教科用図書の採択について (学校指導課)

※以下「議案第13号」以外の案件を省略

[非公開議案の審議結果について]

○ 議案第13号 令和2年度使用小学校教科用図書の採択について（学校指導課）

（説明の概要） 本日は令和元年度金沢市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会委員長の松原道男様、副委員長の加藤隆弘様が出席されている。また、種目ごとの調査委員長も控えている。

本日の委員会に至る経緯について報告する。5月31日の第1回選定委員会を受け、6月4日に第1回調査委員会を開催した。その折に調査委員の皆さまには教科書を持ち帰っていただき、約4週間、調査研究を進め、7月5日に第2回調査委員会を開催し、調査研究の結果を資料Aの調査研究報告書としてまとめていただいた。また、金沢市立小学校53校にもそれぞれ研究委員会を立ち上げ、調査していただいた。その調査研究の結果をまとめたものが資料Bの調査研究報告書である。

さらに、各小学校の調査研究のため、市民、保護者の方々に教科書を見ていただくための教科書展示会を開催した。金沢市教育プラザ富樫において6月14日～27日の14日間、常設展示を行うとともに、金沢市立小学校の28校において6月12日～27日まで、各学校3日間ずつ移動展示を行った。これらの展示会においては、広く市民や保護者の方々に閲覧していただくとともに、意見箱を設置し、意見を寄せていただいた。なお、石川県では6月14日～27日を教科書展示期間とし、金沢市内では教育プラザ富樫の他、石川県教員総合研修センター、県立図書館で教科書を展示した。期間中、教育プラザ富樫には、一般の方が90名、教職員等を併せると192名が教科書をご覧になった。各学校での移動展示には、一般の方が63名、教職員等を併せると805名が教科書をご覧になった。両展示場を併せると、一般の方が153名、教職員等を併せると997名が教科書をご覧になったことになる。これらの教科書展示会において、プラザでは75枚、移動展示場では42枚、市民からのご意見が寄せられた。それらの調査研究報告ならびに資料等に基づき、7月23日と24日に第2回、第3回の選定委員会を開催し、教科書採択に係る答申内容について審議し、本日、ここに答申書をお渡しする運びとなった。

金沢市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会の松原委員長より、金沢市教育委員会の野口教育長に令和2年度使用小学校教科用図書の採択に係る答申書を提出していただく。

選定委員長	諮問を受け、公平かつ慎重に審議を行い、小学校教科用図書の採択に関わる意見をここに取りまとめましたので、答申いたします。
教育長	委員長を引き受けていただいた松原先生、副委員長の加藤先生をはじめ、委員の皆さまには、長期間にわたり熱心にご議論いただきました。諮問に対し答申をまとめていただきましたので、この答申を基にこれから採択を進めてまいりたいと思います。本当にありがとうございました。
選定委員長	よろしく申し上げます。
教育長	松原選定委員長より、答申書および答申書以外に配布されている資料についてご説明をお願いいたします。

（説明の概要） 答申書をご覧いただきたい。この答申書については、全ての発行者について金沢市の採択方針に基づき調査研究をした調査研究委員会、各学校の研究委員会の報告、教科書展示会に寄せられた意見等を基に、児童にとって分かりやすいものか、学びやすいものかなど、全体としてのバランスも重視し、選定委員それぞれの立場からの幅広い審議を行い、発行者の優れている点を中心にまとめたものである。採択に当たり、審議の参考にしていただければと思う。

答申書以外の資料について説明する。資料A「教科書用図書調査委員会調査研究報告書」は、各教科の実践に優れた教員を中心とした調査委員会において、約4週間、綿密に調査研究を実施

し作成した報告書である。縦の欄は、金沢市の採択方針に基づき設定した調査研究項目である。「特別の教科 道徳」では7項目、道徳以外については9項目で調査研究した報告書になる。発行者は左から発行者番号順に略称で掲載している。

資料B「各小学校における教科用図書研究委員会調査研究報告書」は、市内の全小学校53校で調査研究し、各発行者の優れた点を中心に挙げていただき、それを事務局で取りまとめたものである。括弧に示されている数字は、類似した意見を取りまとめた意見の合計数である。ご覧いただく際には、合計数とともに、各学校の先生方がそれぞれの教科書についてどのような点が優れていると感じているか、それぞれの教科書の特徴をどのように捉えているかという視点でも参考にいただければと思う。

資料Bの14ページからは、資料Bの別紙として優れている点以外について意見のあったものをまとめたものである。

資料Cは、教科書展示会に寄せられた市民の意見をまとめたものである。

資料Dは、各団体から教育委員会に提出されている教科書採択に係る要望書である。

最後に、石川県教科用図書選定資料は、参考資料として石川県教育委員会が作成し、教科書採択の指導・助言・援助として金沢市に送付されたものである。発行者ごとに特記すべき事項が書かれている。

これらの報告書や資料を基に、全13種目の発行者について答申書を取りまとめた。

教育長

この後の進め方については、選定委員会からの答申を基に委員の皆さまのご意見を頂戴し、この教育委員会議で採択していきたいと思っていますので、会の進行にご協力をお願いしたいと思います。

ここからの進め方について確認させていただきます。まず、選定委員長に1種目ずつご説明いただき、その後、質疑の時間を取りたいと思います。それを3種目連続で行いましたら、一度、選定委員長と選定副委員長、調査委員長には退席していただきます。その後、この7名のメンバーで1種目ずつ審議し、採択を行います。もし審議の途中で確認したいことなどがありましたら、再度、選定委員長、選定副委員長、調査委員長に質問や説明等を求めることができます。

それでは、本日審議を行うのは保健、道徳、家庭の3種目です。答申に基づき、各発行者の特に優れている点について選定委員長から説明をお願いします。

なお、今日の審議の終了時刻は7時半を予定しています。もし7時半を超えるようでしたら、休憩を挟み、再度審議を進めたいと思いますので、ご協力をお願いします。

○種目「保健」

[保健：説明の概要（選定委員長）]

5者の発行者について調査研究し、特に優れている点について答申書に示した。

東京書籍は、項目3の自分の生活の仕方を振り返ることから、学習の方向付けを行ったり、学習したことを実際の生活に生かしたりできるように工夫されている。項目7としては、写真や図のサイズが大きいため、児童に与える印象が効果的で分かりやすく、学習内容の理解につながる写真の充実が図られている。

大日本図書は、項目7として、シールやキャラクターを用いたり、各章のはじめに学習に関わるゲームを取り入れることで、児童の学習意欲が高まるよう工夫されている。

文教社は、項目5として、「発展」では自然災害への備えが自助・共助・公助の関係で取り上げられるとともに、熱中症対策への理解が深まるよう内容の充実が図られている。

光文書院は、項目5として、自然災害や歩きスマホの危険性等に関する内容を「発展コーナー」で取り上げ、現代的な諸課題への対応を理解できるよう資料の充実が図られている。

学研は、項目8として、本市の課題とする「心の健康」に関わり、日常生活と密接に関連したいじめ問題や心の悩み等の今日的課題への理解が深まるよう工夫されている。項目9として、内容に合わせた学習の進め方や学習活動が明確に示されることにより、教え合いや学び合いが促されるなど、言語活動の充実が図られている。

参考までに、選定委員会における調査委員長に対する質疑と応答の内容と、その後、選定委員会で議論したことについて報告する。選定委員会では、調査委員長に対し、調査項目8の金沢市の保健に関する児童の実情がどうなっているかという質問があった。金沢市の健康課題については、例えば体力の増進、口の健康、心の健康があるが、学研では特にいじめを具体的に引き上げ、心の健康課題を多く取り上げているという報告があった。

選定委員から、インターネットを通して流れてくる情報、性教育などの単元がどの程度扱われているかという質問もあった。それに対し、調査委員長からは、保健の学習で性については各者、写真や図などいろいろな特徴があること、インターネットについては光文書院のスクリーンタイムや、大日本図書ではタブレットによる健康被害、メールやSNSの内容があり、家庭においても子どもたちが課題に対して対処できるように図られていることが調査委員会でも話題になったという報告があった。

けがの手当てと、その実習について、どの教科書が使いやすいかという質問に対しては、学研や東京書籍が分かりやすい図で実践しやすく、両者については甲乙付け難いという報告があった。

その後の選定委員会の議論では、基礎的・基本的な知識や技能の習得や、思考・判断・表現力については、東京書籍と学研教育みらいの2者が他者に比べて秀でているという感想が述べられた。また、学研では教科書や資料を読み解くという項目があり、保健の勉強から他の教科の勉強にも関連しやすいのではないかという感想があった。また、現代的な諸課題は年々変わってきているため、新しいことも含めつつ、先生方には教科書を使っていただけるとありがたいという要望的な感想があった。

[保健：質疑応答]

教育委員

東京書籍は他の4者と比較してページ数が多いですね。その分、一つ一つに対して深く、分かりやすいと思いましたが、ページ数についてはあまり問題になりませんか。

教育長

選定委員会ではページ数についての議論はありませんでしたが、調査委員会で、ページについて、量的に多過ぎるのではないか、どのように学習を進めるのかなどの議論がもしあれば、調査委員長に聞いてもよろしいでしょうか。

保健調査委員

ページ数については、おっしゃるとおり東京書籍が多いです。内容が素晴らしく充実していて、深い学びにつながるという感じました。しかし、保健は、3・4年生は4時間、5・6年生は8時間という時数です。その時数の中で、それだけの内容をきちんと履修させるということになると、ページ数がある程度多いと質は保証されるが、限られた時間の中で授業を進める側の先生、受ける側の子どもたちにしてみれば、理解、定着が図られるのかという点で、賛否が分かれた部分があります。

教育委員

教科書の歴史の中で初めて、インターネット接続ができるQRコードが付きまして、その差はあるのでしょうか。先ほど、光文書院がインターネットについて充実しているとの声があったとの説明がありましたが、候補に挙げられている保健の教科書の中で、このQRがとても分かりやすかったとか、けがの手当てが動画で見られていいなど、何か具体的な声があったのでしょうか。

保健調査委員

現代的な課題ということで、インターネット、スマホ、PC関係のことは話題に挙がりました。しかし、保健の学習指導要領で取り上げている内容としましては、小学校段階では、発展的な内容の扱いとなっています。ですから、実際に子どもたちが直面する健康課題について5者を比べてみたところ、一番分かりやすい表記が光文書院のスクリーンタイムであったため、光文書院のスマホ、ICTに関する評価が高かったということです。

その他、パソコンやタブレット等による健康被害や、犯罪に巻き込まれるという点では、東京書籍の5・6年生の36ページで、インターネットによる犯罪被害が分かりやすく4コマ漫画で描かれています。これらは発展の内容になりますが、資料として、現代の子どもたちが直面する健康課題について分かりやすく書かれています。

大日本図書の5・6年生、14・15ページをご覧ください。「ゴリ先生」というキャラクターがメールやSNSのことを教えています。また、スクールカウンセラーが相談に乗っている様子や、いじめについても取り上げています。15ページには対応窓口についても書かれています。

これらのことから、インターネット関係については各者それぞれ特徴があると思いました。

動画という話が出ましたが、実際の授業では、児童がパソコンを使って動画にアクセスするという時間はなかなか取れません。私たちも試してみましたが、アクセスするには手間がかかります。ですから、これは、教科書の学習後の主体的、発展的な扱いであったり、家庭でおうちの人と一緒に見るという扱いになるのではないかと思います。そういう意味でのICTの活用ということで、各者、デジタルコンテンツが用意されています。

教育委員

一つの教科、あるいは学年の教科書の中で適宜盛り込まれれば良いと思いますが、他の教科との関連も大事になるのではないかと思います。インターネットのことも、おそらく他の教科でも扱われているのではないかと思います。そのような他の教科との関連や、他の学年との関連については、教科書の中でどれぐらい工夫されているのでしょうか。丁寧に扱っているような教科書があったとすれば、どの発行者が特徴的だったのかということについて、ご意見をお聞きしたいと思います。

保健調査委員

例えば、東京書籍の5・6年生の4ページをご覧ください。単元の初めのページに「つなげよう」という表記で、家庭のこの内容とつながっている、道徳のこの内容とつながっているという関連が示されています。同じく東京書籍の3・4年生の4ページでも、「つなげよう」ということで、理科の3年生、家庭の5・6年生、それから道徳とこのようにつながっているということが示されています。

各者においても、それぞれのページで関連するところが出てきた場合は、下の方の備考欄で関連について取り上げられています。

教育委員

扱い方はともかく、それぞれの教科書で工夫されているということですか。

保健調査委員

そうです。

教育委員

先ほど教科書のボリュームの話がありました。大きさについて、1者だけA B判で小さめだと思いましたが、何かご意見はありましたか。

保健調査委員

特段、そこに関しての意見は出ませんでした。ランドセルの中身が重いという話題も耳にするので、教科書の重さへの配慮も考えていかなければならないと思いますが、調査委員会ではあまり話題になりませんでした。

教育長

私は全部調べてみましたが、東京書籍はA判で0.4kg、ページ数は146ページ、大日本図書はAB判で0.28kg、92ページ、文教社はA判で0.37kg、84ページ、光文書院は0.33kgで106ページ、学研はA判で0.35kg、94ページでした。これは全て2冊の合計です。A判を使っているところは、どちらかというところの紙の質や重さを考えて、ページ数が多くなっても軽くなるような配慮・工夫がされているように思いました。

それでは、次の科目「特別の教科 道徳」の審議に移ります。早速、委員長からご説明をお願いします。

○種目「道徳」

[道徳：説明の概要（選定委員長）]

8者の発行者について調査研究し、特に優れている点について答申を示した。

東京書籍は、項目5として、第3学年以上の「つながる・広がる」では各教科の関連が明記されており、日常生活と関連した内容など、多様な資料が掲載されるよう工夫されている。

学校図書は、項目3として、付属ノートには内容項目ごとに自分の考えと友達の考えを書く箇所があり、「つなげていこう」では、自らの学習を振り返ることができるよう工夫されている。

教育出版は、項目2として、「スキル」や「やってみよう」では役割演技やロールプレイングなどの仕方が具体的に複数示されており、活動を通して考えを深められるよう工夫されている。

光村図書は、項目1として、「考えよう・話し合おう」では発問が複数提示されたり、深く考えられる中心発問がマークで区別して示されたりしているなど、言語活動の充実が図られている。

日本文教出版は、項目2として、「学習の手引き」では、考え話し合う場面や役割演技などの場面が数多く設定されており、問題解決的な学習に取り組めるよう内容の充実が図られている。

光文書院は、項目6として、生命尊重を全学年で重要項目とし、各学年で特に大切にしている内容の教材を分かりやすく色で示し、今日的な課題を系統的に学習できるよう工夫されている。

学研は、項目6として、生命尊重を全学年で重要項目とし、2学年ごとに特に大切にしている内容の教材を分かりやすく色で示し、今日的な課題を系統的に学習できるよう工夫されている。

廣済堂あかつきは、項目3として、付属ノートには内容項目ごとに自分の考えを自由に書くことができる欄があるなど、自らの学習を振り返ることができるよう工夫されている。

参考までに、選定委員会の調査委員長に対する質疑と応答の内容、および、その後の議論について報告する。まず、「道徳では自分で考えて議論し、深めることが大切だが、その際、別冊のノートのある・なしでどういう違いがあるのか」という質問があった。これに対しては、別冊ノートを使用しているのは3者で、そのうち日本文教出版はすっきりしており、自由欄があり、ノートのページは教材ごとで、発問は教材関連のものもあること。廣済堂あかつきは、記述欄もあるが、内容項目ごとになっており、発問はその教材文からやや離れた一般的なものになっていること。学校図書は、発問が教材関連となっているが、ノートというよりも分冊的で、内容がかなり膨らんでいることが特徴であるという応答があった。

「別冊のノートがある場合、それを使うことを原則としてこの教科書を評価したかどうか」という質問に対しては、ノートを使うかワークシートなどを使うかは授業者の責任において選択すべきことだが、若手の先生方においては、ノートを活用することで一定の教育的成果が安定して得られるのではないかという応答があった。

発問の自由度に関する質問があり、これに対しては、厳選した発問でじっくり考えさせるのが日本文教出版の特徴であるとの応答があった。また、発問が複数あるような発行者もあるが、ベテランの先生方であれば学習場面に応じてそこから発問を選択することが可能だが、若手の先生だと、複数の発問があるとぶれてしまい、狙いにきちんと到達できないことも考えられるのではないかという応答があった。

教育出版に関して、最後の「深めよう」で価値的な提示があることについて質問があった。こ

れに対しては、自分でもう一度考えてみようという展開で終わっている教科書の方が多かったが、教育出版は、より絞り込んだ項目で考えさせようとしている意図が感じられたという応答があった。

道徳の評価を統一する観点から、ノートがあった方がいいのかという質問があった。これに対しては、その子の中でどのように道徳的価値を見つめ、充実した学習の時間を過ごしたかが道徳の評価になるので、その点でノートの活用は有効であり、使わないのであれば、ワークシート等をポートフォリオとしてしっかりと積み重ねていくことが授業においては重要であるという応答があった。

その後の選定委員会の議論では、自分の考えを書いて深めるためにはノートがあるものの方がいいのではないかということで、日本文教出版が授業に沿って自然の流れでノートが作られていいのではないかという感想があった。また、子どもたちが学んで感じたことを教師が励ます評価をするときには、やはりノートがとても大事ではないかということで、日本文教出版のものは、若い先生も含め、どの先生も使えていいのではないかという感想があった。

[道徳：質疑応答]

教育委員

道徳は、さまざまな物語や人を紹介することから発展して、子どもたちが何を考えるかというところに導いていくので、出典の書き方はとても大切だと思いますが、各者の特色について話題になりましたか。

道徳調査委員

出典等については、確かに、具体的に出典を書いている会社もあれば記載がない会社もありますが、それについて特に私どもの委員会で議論することはありませんでした。

教育委員

道徳に関しては、答えを導くというより、いろいろな意見を出し合うものということであると、私もノートというツールが非常に有効だと思いますが、8者の中で付属のノートがあるのが3者で、そのノートのツールとしての使いやすさについて、意見はありましたか。

選定委員長

選定委員会でも、道徳では自分で考えて議論して深めることが大事であるということで、先ほど報告したように、日本文教出版は内容に応じて記述欄があり、発問に対して答えを考えられるということで評価している選定委員が結構いたように思いますし、若手の人にも使いやすいのではないかという意見がありました。具体的なことについては、調査委員長からお願いしたいと思います。

道徳調査委員

日本文教出版は、教材ごとにページがあり、教材文を読んで、それを基に内容項目についてじっくり考えやすいようになっており、ノートも教科書も使いやすいように感じました。

学校図書の本は、情報が非常に多く、子どもたちが教科書の教材文を読みながら、ノートのさまざまな情報も受け入れるので、思考が深まらないのではないかという感じがしています。

廣済堂あかつきについては、ノートはすっきりとして、記述欄もあり、使いやすいと思いますが、発問について私たちは検討しました。道徳において、主要な発問というのは、子どもたちがその内容項目について考えを深め、自分を見つめる上で非常に大切なものです。しかし、発達段階から、あまり抽象的になったり、教材から大きく離れたりとすると、しっかりと考え切れないお子さんも出てくるのではないかと思います。そういった部分では、やや使いづらいページもあるというのが正直なところです。

教育委員

道徳が教科化されたときに、考え議論するということが大きな柱になり、それについては8者とも重視していると思いますが、コメントを読むと、

若干強弱があるようです。一方で、道徳は小学校では2年前に新しく教科書が誕生したので、2年前と比べて今回は改善されているところもあるのではないかと思います。細かな点は多々あるかと思いますが、調査の段階で、2年の間に各発行者で改善・工夫が加わったようなところ、目に留まったところはありませんか。

道徳調査委員

特に、書くこと、言語活動の充実については、各者、少しずつウエイトが重くなってきているのではないかと思います。例えば、現行で使用している日本文教出版の教科書のノートは、発問がより厳選されて、書く量が減っています。使いやすくなっていると同時に、考えを深めるという部分では非常に授業で使いやすくなっているように感じました。これは調査委員会で各委員からも意見として出ていました。

教育長

それでは、道徳についてはいったん終わらせていただきたいと思います。次に、家庭科の審議に入ります。まず、ご説明をお願いします。

○種目「家庭科」

[家庭科：説明の概要（選定委員長）]

2者の発行者について調査研究し、特に優れている点について答申書で示した。

東京書籍は、項目1として、「いつも確かめよう」で複数の写真や動画を用いて、手縫いや調理の手順等を手元で繰り返し見返すことができるよう工夫されている。項目9として、「話し合おう」「深めよう」の活動が題材ごとに具体的に提示されており、ペアやグループで問題解決的に学習が進められるよう工夫されている。

開隆堂出版は、項目1として、児童がつまづきそうな箇所を拡大、印等で見やすくし、単元の終末では身に付けた知識や技能を振り返り、自己の変容が確認できるよう工夫されている。項目9として、児童の疑問や気付きから始まる金沢型学習スタイルの「つかむ」の活動が重要視された問題解決的な学習の流れが工夫されている。

選定委員会での質疑応答と議論について報告する。東京書籍の「話し合おう 深めよう」のところで「困ることと改善」という文言があるが、開隆堂出版では「問題点と理由」という文言があり、実践につながるという意味では改善策が挙げられている東京書籍の方が良いように見えるがいかがかという質問があった。これに対しては、調査委員会ではそこを比べるような議論はなかったが、子どもたちの疑問や気付きを大事にした学習の流れとしては、開隆堂出版の文言がそれに近いという回答があった。ただ、東京書籍の方がかなり大判なので、「話し合おう」「深めよう」の内容が充実している。それを全てすることはできないかもしれないが、教師の使い次第で、子どもにたくさんの視点を持たせて考えさせることはできるのではないかという回答があった。

QRコードの動画について、活用ができるのかという質問と、今回の評価ではどうだったのかという質問があった。これに対しては、東京書籍、開隆堂出版ともに動画は非常に分かりやすい。どの教科書にも動画等のデジタルコンテンツが用意されているが、非常に有効であるという回答があった。

図や写真の分かりやすさの違いについての質問もあった。これに対しては、東京書籍はA4判で紙面が大きく、資料も豊富で、また、実寸大写真も示されている。開隆堂出版は、学習用語が太字で強調されており、行が変わるときに文節が途中で途切れないような記述になっているので、小学生という発達段階を考えると、その方が読みやすい、分かりやすいと感じるという回答があった。

これに対し、選定委員からは、開隆堂出版は重要項目が太く見えるのは良いが、文字の量が多いように感じる。東京書籍は写真や図、文字のバランス、フォントが見やすいのではないか。また、東京書籍にはシンキングツールの図もあるという発言があった。調査委員長の回答としては、2者の教科書を比べると、写真や絵なども開隆堂出版の方が少し見やすいのではないか。例

えば、手縫いの部分が少しでも分かりやすいように、白の上にピンクを載せた背景で、その上に写真を載せてあるので、布の色や糸の色など、コントラストが非常にはっきりしている。子どもたちにとって分かりやすいのではないかという意見が上がっていたとの回答があった。

その後の選定委員会の議論では、東京書籍は5ページにQRコードがあり、それを通して見ることになるが、開隆堂出版はきちんと各ページにQRコードがあるので、その時々でQRコードを見ながら指導できるのは参考にしやすく親切だという感想が述べられた。また、家庭科に限らず、QRコードでデジタル教材を見られるものが今回は非常に増えている。教科書の選定に当たっては、紙媒体だけではなく、動画まで見られるので、どこまで考えて選定しなければいけないかが今後の課題だという委員もあり、そのことがどの教科書会社についても話題となった。

[家庭科：質疑応答]

教育委員

以前の教科書との大きな違いはありますか。

家庭科調査委員

いろいろあると思いますが、中でも今回は、和食という日本の伝統文化がよりクローズアップされていると思います。また、家庭科は実践的・活動的な力を身に付けていく部分が大きいので、これまで以上に子どもたちに定着するように写真が豊富に掲載されていたり、QRコードが掲載されるなど、機能面の充実が見られます。また、「新しい学習」に出てきますが、プログラミング教育に触れた内容が開隆堂出版の128ページにあります。これはこれまでの教科書にはなかったもので、生活の中のプログラミングを見てみようということで、このようなページが新しく入っています。

教育委員

選定委員長の説明の中で、特に開隆堂について、自分の変容が確認できるよう工夫されているというご指摘がありました。お互いに研究し合っているのも、それはおそらく東京書籍の方もないわけではないと思うのですが、開隆堂の方が特色があるというご説明だったと思うので、そのあたりについてもう少し具体的な説明をお願いできますか。

家庭科調査委員

開隆堂出版の教科書26ページ、27ページをご覧ください。今ほどのご意見にもありましたとおり、どちらの教科書にも学習の終わりには振り返るものが載っています。例えば27ページでは、小物づくりで「できかな」ということで、小物づくりについて小題材の振り返りをしています。そして、全ての単元が終わった後、「振り返ろう」で学習したことを振り返ります。この学習のスタートである20ページをご覧くださいと、単元の初めに、学習のめあてが示されています。この学習のめあてに戻り、小題材の振り返りだけでなく、単元の振り返りとしても、自分はどうだったかなと子どもたちに考えさせている点では、開隆堂出版で自己の変容や成長が見られるのではないかと思います。そして、そのすぐ後に「生活に生かそう」というものも付いていたので、先ほどのような報告をさせていただきました。

教育長

ありがとうございました。それでは、この後、教育委員会で具体的に審議をさせていただきます。選定委員長、選定副委員長、調査委員長には、しばらく別室でお待ちいただきたいと思います。

(選定委員、調査委員 退室)

[保健：審議]

教育長

それでは、科目ごとに審議を進めます。まずは保健です。初めに、各発行者について、委員の皆さまからご意見を頂戴したいと思います。5者ありますが、まずは東京書籍についてお願いします。

教育委員 中身がしっかり書いてありますが、単純に、持って、重いという印象がありました。

教育長 この発行者は、他の種目も含め、A判が多くなったと思います。紙の質を考慮しても若干重いのではないのかという意見が多いと聞いています。

教育委員 課題を自分たちで見つけて、調べて、理解して、深めて、まとめて、生かして、振り返るといふことで、とても深く研究するといふか、考える力を付けるところがいいと思いました。それから、薬物のことまで書いてあるのが、子どもたちにとって将来の参考になるのではないかと思いますし、絵がとても分かりやすいのが、学びやすさにつながるのではないかと思います。

教育委員 私も、ぱっと見て写真やイラストが非常に鮮明で見やすいことと、ステップといふのが、おそらく教員も授業を進めやすいといふか、授業の内容が想像しやすくて分かりやすいのではないかと思います。

教育長 金沢が大事にしている問題解決学習の流れが大変明確であるといふご意見だったと思います。

教育委員 やはり見やすいことがとても印象的でした。ページ数のことは先ほど質問させていただきましたが、一つ一つがゆっくと理解できるようになっているのではないかと感じています。

教育委員 ページ数が多いといふことは、その分、扱われている分量が多いといふことですから、幅広く学べるように、あるいは深く学べるようにといふ配慮がされた結果のつくりになっていると思います。学習を丁寧に進められるような分量で、ページ数が多い意味があるのかなと思います。
保健は決して毎日行われる授業ではないでしょうから、重さやサイズについて若干気になる点はありますが、大きく問題になることではないと思います。保健に関わって学ぶ内容も増えてきていますし、他教科との関連なども配慮された、非常に丁寧なつくりになっているといふ印象を持ちました。

教育長 ありがとうございます。次に、大日本図書の教科書について、何かご意見があればお願いしたいと思います。

教育委員 東京書籍と比較すると、特に5・6年生の場合は文字が小さ過ぎて読みづらい感じがしました。

教育委員 他の出版者と比べてサイズが配慮されたつくりになっているといふ特徴があると思います。中身に関しても、過不足なく触れられている印象があります。幅広い意見を整理した形で提示し、それからどうするのか、やってみたらどんなことが起こり得るのかといふ形で、内容に関しては各出版者ともに本当に遜色ないと思います。そういうことからすれば、決して見劣りするといふ印象は持ちませんが、ページ数や小さいサイズといふ点は、長所でもあり短所でもあるといふ印象を持ちました。

教育委員 子どもたちがイラストで出てくる場面がとても多いですが、一見してアジア人ばかりがいるような気がして、ちょっと気になりました。この時代、金沢でも、どこの町でも、小学生にはさまざまな国の児童がいるので、髪の色が違ったり、肌の色が違ったり、できればいろいろな児童がいてほし

かったです。例えばお弁当を食べている場面で、日本人の児童でも車いすの子がいるような多様性が、少し欠けているように思います。保健の教科書で、これだけたくさんの人を表していながら、ここに多様性がないというのは、ちょっとがっかりした点です。

教育委員

ぱっと見た感じ、細かくて少し見にくいと思いました。それから、シールを活用しているということですが、3・4年生だけでシールを使っていて、このシール自体、これを貼ったところで、どのように使うのかなと思いました。「振り返ろう」のところに、自分が分かったか、分かっているかということなのでシールを貼るだけですね。これを担任の先生が見て、分かっている子に何かフォローするのか、活用の仕方が分かりませんでした。

教育長

ありがとうございました。次は文教社について、何かご意見がありましたらお願いします。

教育委員

ツールとしての見やすさでいうと、写真も非常にたくさん使っていて見やすいとは思いますが、ただ、一個一個がサイズの割に細か過ぎるのと、色使いも少しぼやとしてしまっていて、子どもたちが見るにはちょっと細か過ぎるのかなという点が気になりました。

教育委員

5・6年生の28ページ、29ページの自助・共助・公助のページは、前に見たときもすごく印象に残りました。ですから、取り上げ方などはなかなか良いのだろーと思えますが、やはり漫画の絵が細々としているのが印象的でした。

教育委員

それぞれの工夫はあると思いますが、印象としては、盛り込み過ぎという印象です。ページによっては6段ぐらいの盛り込み方なので、それが一覽できていいという評価もできなくはないかもしれませんが、小学生向けにしては盛り込み過ぎという印象を持ちました。

教育長

ありがとうございました。次は光文書院についてお願いします。

教育委員

最初の1ページ、2ページは写真がとても迫力があり、何となく勉強したくなるような雰囲気かなと思いました。ただ、それぞれの内容については、文教社と同様、漫画を使っているのですが、展開が早いというか細かいような気がして、もう少し大きくしてきちんと掘り下げてあった方がいいような感じがしました。

教育委員

今、ご指摘がありましたように、最初のページはすごく迫力のある写真が載っていますが、中は比較的穏やかというか、迫力を感じるような写真使いはなく、イラストが多用されているので、分かりやすい気はします。統計などのデータをかなり活用しているという特徴があり、そういう力を伸ばすという点では、他の教科書と比較して工夫したつくりになっている気がしました。

教育委員

日本語のフォントがまちまちで、スタイルがあまりにもたくさんあるので、開いたときに疲れます。字の大きさは違っていいのですが、できれば同じスタイルの活字の方がいいです。本当にたくさんスタイルがあるので、これでは子どもたちは目がちかちかしてしまうのではないかと思います。

教育長

字の大きさが違うのも随分つらいですね。

最後に、学研についてお願いします。

教育委員

ぱっと見、東京書籍とよく似ていて、写真の使い方や、アニメーションというか漫画というか、そのバランスや使い方もうまいと感じました。ふりがなもしっかり打たれていて、こちらも見やすいという感想を持ちました。

教育委員

最初のページを開けると、「健康ってどんなこと？」とクエスチョンマークが付いていて、ちょっとユニークかなと思いました。「○○はなぜ？」と語り掛けてくれるというのは子どもとの距離が近くて、他の教科書と違ってインパクトがあります。

それから、「すてきな自分らしさを持っています」というのは、いつも私が強調してほしいと望んでいるところです。保健の中には必ず成長段階が出てきます。みんな違うのだよということが大切です。それもあって、いろいろな国の人を載せてほしかったのです。早い段階で背がすごく高くなるアメリカ人もいれば、小柄なアジア人もいればということ表現してほしかったです。「一人一人が限らない力とすてきな自分らしさを持っています。もちろんあなたも」というところは、そう言われると、そうかと納得しますし、すてきだなと思いました。ただ、多様性に欠けています。

教育委員

單元ごとに「つかむ」から始まり、「考える」「調べる」があり、最後に「まとめる」「深める」というのは、すごく段階的に分かりやすく授業の展開がされていると思いました。教員側としても授業の展開がしやすいのと、子どもたちとしても理解しやすいと思います。最後にこういうことが分かったということがはっきりして授業を終えられるのが、すごくいいと思いました。

教育長

問題解決がしっかりと意識されているということですね。

教育委員

はい。

教育委員

東京書籍と学研が、他の3者より見やすいという印象です。分かりやすいという点で良いのではないかと思います。

教育委員

この発行者の特色だと思ったのは、実践してみるということです。例えばげがをしたときには自分でどう対処するのかなど、技能という印を掲げながら、実際にやってみるところが特色ではないかと思いました。心の单元でも、腹式呼吸や体ほぐしなど、実際に友達と一緒にこうやるのだということをすごく丁寧に書かれています。保健に関わる実践・実習にすごく注目して、やってみることを促しているのは特色だと感じました。

教育委員

「もっと知りたい、調べたい」ではないですが、結構いろいろなことが書いてあって、東京書籍と比較して良いと思います。

教育長

それでは、5者についてそれぞれのご意見を頂戴して、どうも5者のうち東京書籍と学研が良いのではないかという声が多かったように思いますが、他にぜひ入れてほしいという発行者はありますか。それでは、これから東京書籍と学研の2者で選んでいきたいと思います。

最初に、また一人一人のご意見を伺いたいと思います。

教育委員

健康とは何かという定義付けで、どちらも健康は大切ということをしているのですが、学研は「かけがえのない健康」としているのに対し、東京書籍は「健康という宝物」としていて、東京書籍の方が子どもたちの目

線にぐっと近づけていて、うまいなと思いました。

教育長 子どもの気持ちをつかむ工夫がいいのではないかということですね。

教育委員 東京書籍の方が「調べる」「解決する」等の内容を大きめに捉えているような感じがしますが、逆に授業を進めやすいのではないかと思います。

教育委員 どちらもあまり遜色ないような気がしますが、イラストの使い方、見やすさの点でいうと、東京書籍は漫画っぽい気がしなくもないです。

5・6年生が冒頭で「心の発達」を扱う単元になっているので、そこを見比べると、学研の場合は、例えば6ページで、感情、社会性、思考力と、心の働きが変化していくのだということを丁寧に描き出していると思います。東京書籍の場合は、7ページの解説のところで、さりげなく表現しているだけです。もちろん本文の中で説明があるのですが、せっかくいろいろなイラストを用いて、説明のしやすさ、分かりやすさを志向しているのに、心の発達というかなり大事な単元の一つにおいて、扱い方に違いがはっきりと出ているのはとても気になりました。

教育委員 どちらが良いという結論は出ていませんが、学研は、やはり授業の展開がすごくしやすいと思います。東京書籍は、「資料」というところがすごく印象的でした。例えば12ページのところの「資料」では「緊張を味方にする方法」とあって、スポーツをやっている子だったらすごく意識が行くと思いますし、他にも「インターネットによる性犯罪被害」など、子どもたちは興味を持って見られるのではないかと思うので、そこはとても良いと思いました。

教育長 それでは、それぞれの意見をまとめていただき、東京書籍と学研の2者について、採択したい方に挙手をお願いします。

—挙手—

教育長 東京書籍と学研で5対1ということですか。私もどちらかということだと東京書籍の方が学びやすい感じを受けていますが、よろしいでしょうか。

教育委員 私は全く差し支えありません。

教育長 それでは、ほとんどの教育委員の皆さまが東京書籍がいいというご意見でしたので、保健については、東京書籍を採択することによってよろしいでしょうか。

委員一同 異議なし。

教育長 ありがとうございます。保健は東京書籍を採択することで決定させていただきました。

[道徳：審議]

教育長 次に道徳の審議に入ります。道徳は発行者が多いですが、1者ずつ、ご意見を頂戴しようと思います。初めに東京書籍について、何かご意見があればお願いします。

教育委員 とても分かりやすいつくりになっていると思います。確か前回、著作者が不明だったのがこの出版者だと思いましたが、そのあたりは全て編集委員会が作ったという記述になっていて、全て書いてあったように思います。

そのあたりは改善されたのかなと思いますし、使いやすさを改善しながら作られたような印象を持ちました。

教育長 他にご意見がなければ、次の発行者に進めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、次に学校図書についてはいかがでしょうか。学校図書はノートと本編が分冊になっていることが一つの特徴になると思います。

教育委員 学校図書は別冊ノートがあるということで、私も別冊ノートに関心を持っていろいろ見ていたのですが、ノートの情報量が結構多いというか、いろいろなことを書き過ぎている気がして、本当にノートの役割を果たすのだろうかという感じがしました。

教育長 私も読ませていただき、どちらが教科書なのかという感じが若干しました。

教育委員 私も教科書が2冊あるような印象を持ちました。それから、文字が少し読みにくい感じがしました。東京書籍と比較すると、行間が少し狭く、見にくい印象です。

教育委員 学校図書は、教科書の中の各テーマが何なのかということについて分かりにくいと感じました。他の発行者はもう少し分野がはっきりしている気がしました。

教育長 目次は非常に大事なところですね。

教育委員 道徳で一番大事な物語や、考えるきっかけをつくる文章はいろいろあるのですが、子どもたちが喜ぶのだろうかという印象を持ちました。

教育長 それでは、次に教育出版について、ご意見を頂戴したいと思います。

教育委員 一番好きだったのは、最初のページを開けると「一番大切なものを書きましょう」と書いてあることです。これは良いと思いました。それから、「これから1年間、より良い自分を目指して一緒に勉強して」というのは、すごく良い子にならないといけないという感じがしますが、「道徳ではこんな学習をするよ」というところは分かりやすいので好きです。道徳は、これまでに経験した理科や社会、算数などとは違うものなので、一体何をやるのだろうと、みんな少しドキドキしますが、「気付く」「考える」「深める」「つなげる」と書いてあって、そこから話が始まるころは気に入りました。

教育長 問題解決の流れが非常に明確になっているということですね。

教育委員 今、おっしゃったように、「道徳ではこんな学習をするよ」の「気付く」「考える」「深める」「つなげる」のところで、小鳥がいろいろアドバイスをしたりして、道徳の授業を進めるには割と進めやすい方の教科書ではないかと感じました。

教育委員 私も、授業を進めていく上では、すごく段階的で、分かりやすくていいと思いました。最後の補充教材も、日本の先人のことなど、知っておくといいことがいろいろ書いてあり、なかなか面白いと思いました。

教育長 かなり肯定的な意見が多かった印象があります。

次に、光村図書について、ご意見を頂戴したいと思います。

教育委員

全体的に読みがいのある素材で構成されていることが印象深かったです。表紙だけを取っても、道徳でどんなことを期待するか、どんなことを目指すかというメッセージ性があり、とてもインパクトがありました。表紙を開いたところも詩をしたためたようなつくりになっており、読み物を通じて、考えましようというメッセージ性が強いつくりになっていると思いました。

教育委員

この教科書のところどころにQRコードが付いていますが、これを読み取ると何が出てくるのですか。ここにあることに気が付かず、確認していませんでした。例えば6年生の166ページの「国際親善 私たちにできること」の下にあります。これは具体的に何が出てくるのですか。

教育長

光村図書の道徳の教科書の、QRコードの中身は何かというご質問です。具体的なことは調査委員長に説明していただいた方がいいかもしれません。

道徳調査委員

私も自分の携帯で各QRコードを見てみましたが、ウェブ資料が出てきたり、音声で教材文を読み上げたり、動画が見られるサイトにつながったり、各者がそれぞれ工夫されています。ただ、QRコードがなくても、ウェブページにつないでいくと充実したコンテンツがそろっている発行者や、デジタル教科書が非常に使いやすい発行者もあり、QRコードがあるから非常に授業がしやすいかという、私は、現状ではそうは思いませんでした。場面ごとのイラストや印象的な写真などを授業者が選び、それを板書の中に位置付け、その教材を深く読んでいくことが大事ではないかと思えます。

例えば読み上げ音声についても、担任が子どもたちの様子を見ながら利用することで効果が上がることもありますし、発達段階もいろいろあるので、私たちはQRコードについて議論はしましたが、QRコードだけで「これがいい」「これがちょっと」というような話はなく、使い方ではないかという判断をしました。

教育長

ありがとうございます。次は、日本文教出版について、ご意見を頂戴したいと思います。日本文教出版も分冊になっています。

教育委員

ノートについて、その他2者のノートと見比べてみましたが、教員経験にあまり左右されず、ある程度の進め方ができるようなつくりになっていると思いました。また、発問が非常に的確で、授業にもってこいのことを聞いたり、発問の仕方がうまいという印象を受けたので、ノートに関しては、教員からすると扱いやすいのではないか思いました。

教育委員

先ほどから言われていたように、本が重いと感じました。紙質が厚く、本としてはすてきなのですが、持って歩くには大変ではないかという感じがします。ただ、一番きれいです。

教育長

日本文教出版が一番重かったです。6冊で合計2.81kg、ページ数は1,080ページありました。

教育委員

一番軽いのはどれですか。

教育長

教育出版です。1.91kgで、908ページです。

教育委員 絵本のように挿絵もとても見やすく、きっと子どもたちは興味が湧くのではないかと思いました。内容も、生きていく上で一番大事なことに気付き、それについて考えるというのが優れていると感じました。表紙の子どもたちの表情が生き生きとしていて、すごくいいと思いましたし、考える力が付く本ではないかと思いました。

教育長 ありがとうございます。次に、光文書院はいかがでしょうか。

教育委員 日本文教出版の方が重いかもしれませんが、光文書院はサイズが大判で圧迫感があります。大判を生かしたつくりになっていればよいのですが、脚注がところどころに書いてあるだけで、大判の良さを生かし切れていないように思いました。

教育長 こちらは2番目に重く、2.5kgを超えています。次に、学研について、ご意見を頂戴したいと思います。

教育委員 学研も大判サイズで、とても特徴的だと思います。それから、これは読み物的な扱いで作られています。多くの発行者では、「ここではこんなところに注目しましょう」というリードが書いてあるのですが、この発行者では最初にさりげなく書いてあるだけで、読み物の方に軸足を置いた構成になっているように思いました。

教育委員 6年生の102ページの「こだわりのイナバウアー」とは何かと思って開いたら、とても美しい写真が載っていて、いいなという感想を持ちました。違う本には、今度、金沢の市民大学にいらっしゃる鈴木明子さんも載っていました。きちんと旬の人々を載せていて、各者それぞれ工夫して、本当に皆さん考えて考えて、誰を載せるか決めていらっしゃるのだろうなと頭が下がる思いです。

教育委員 興味のある話はたくさんあるのですが、どうしても大きさが気になります。大きい割に、上の方は何も書いていない白いところが結構多かったです。もう少し効率よくできないのか、ここまで大きくしなければいけなかったのかというのが印象です。

教育長 A判にするなら、それなりの理由もしっかり示しなさいということですね。
ありがとうございます。最後に、廣濟堂あかつきについて、ご意見を頂戴したいと思います。

教育委員 ノートに頼っているせいか、それぞれのものについてどれに属するかという部分がおろそかになっている気がします。赤とか、黄色の2点や3点などと付いていますが、これはもう少し丁寧にできなかったかと思います。他の発行者はみんなこれをもっと大きく取り上げているのに対し、廣濟堂あかつきはそれが見にくいと思いました。

教育委員 ノートが、かなり筋道立った扱い方を予定されているつくりであることが特徴ではないかと思いました。

教育長 言葉は悪いですが、路線が敷かれてしまっているということですね。
それでは、8者についてご意見を頂戴しましたが、2、3者に絞り込みをして、審議を深めていきたいと思います。何回手を挙げても結構ですので、この会社は残したいというところがありましたら手を挙げていただければと思います。

—挙手—

教育長

1 回目の評価で、私も含め 7 人全員が手を挙げたのは日本文教出版でした。光村図書が 2 人、教育出版が 1 人で、東京書籍、学校図書、光文書院、学研、廣済堂あかつきに手を挙げた人はいませんでした。ちなみに私は教育出版もいいのではないかと考えていました。

それでは、日本文教出版、光村図書、教育出版の 3 者に絞り、もう少しご意見を頂戴した上で最終決定をさせていただこうと思います。

教育委員

日本文教出版のノートがシンプルで、これこそノートではないかという気はしています。

教育長

日本文教出版のノートに対する評価ということです。これは先ほどのご意見の中でも出ていましたし、調査委員会や選定委員長の報告からも出ていたと思いますので、皆さん同様に支持している部分だと思います。ノートを活用しながら授業が非常に進めやすいですし、さまざまな年代の先生方がきんとした授業ができる構成ではないかというご意見も挙がっていました。

教育委員

ノートは日本文教出版がいいのではないかと考えていますが、私が光村図書に少し惹かれるのは、いろいろな書体が使われていたりして、子どもの興味をそそるのではないかということです。道徳に抵抗がある子もいる中で、文字の大きさが違っていたり、漫画のようなものがあったりするのは、子どもの視点からすると、すごく興味を持って勉強できるのではないかと考えています。光村図書に少し引かれています。日本文教出版は、トータル的にはいいのですが、やはり重いというのが気に掛かります。

教育長

3 名の委員からご意見を頂戴しました。今のご意見を踏まえながら、複数回、手を挙げて結構ですので、その中で一番多かったところを採択することとしたいと思います。

—挙手—

教育長

教育出版は 1 人、光村図書は 0 人、日本文教出版は全員挙手でしたので、道徳は日本文教出版を採択することよろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

[家庭科：審議]

教育長

それでは、家庭科の審議を始めます。家庭科の発行者は 2 者しかありませんので、率直に、こちらの方がいいのではないかとご意見も頂戴できればと思います。

教育委員

どちらも本当によく考えて作られている教科書だと思います。東京書籍はサイズが少し大きいですが、この大きさをうまく利用して、ページがとても見やすいです。最初に「家庭科はあなたの生活をより良く変えていく教科です」と言われると、心の準備ができますし、その下の 1～6 も見やすいです。作り始めたら必ず片付けがあり、片付けが大事だということは何度も教えてくれることもあって、これがいいかなという思いがあります。ステップが扇形で 1、2、3 となっていくのも分かりやすいですし、考えの流れが、図 1 から図 4、次に図 5 から図 8 など、とても分かりやすいです。これを読んで、児童が身の回りをきれいにしていってくれたら本当に

いいなと思いました。

また、扇子マークの「日本の伝統」というところが、かなり面白くて、開いてどこにあるか一生懸命探したりして楽しみました。

教育長

教科書の編集の仕方が子どもにとっては非常に良いのではないかと、勉強しやすいのではないかと、意欲が出るのではないかと、日本の文化ということでのご意見だったと思います。

教育委員

「日本の伝統」の簾戸の入れ替えなどは、今、簾戸がある家はほとんどないと思うので、こういうものを見ても分からない子どもが多いかもしれませんが、昔ながらの夏支度や家の衣替え、水まきなども盛り込まれていることは、私も良いことだと思います。

教育委員

2者でありながら、サイズがこんなに違うのかと改めて感じさせられました。先ほどのご指摘のような大判の良さを生かしたところは東京書籍にはあると思います。一方で、開隆堂出版は、必ず「なぜ」という問いを単元の頭に置いて、「考えてみよう」というスタンスになっているのに対し、東京書籍はどちらかというと「やってみよう」「見つけよう」など、行動を促すようなスタンスです。「なぜ」を考えていこう、課題を考えてみようというのが開隆堂出版の大きなスタンスであるとするならば、東京書籍は生活に関わるいろいろなことをやってみようということで、スタンスが少し違う気がします。

つくりは二つとも遜色ない気がするのですが、どちらでも差し支えないように思いますが、「なぜ」という問いを生活の中で考えていくところに視点を定めた開隆堂出版は、授業の展開としては東京書籍と比べると秀でていてのではないかとこの気はします。

教育長

金沢が大事にしている問題解決ですね。

教育委員

はい。

教育委員

開隆堂出版の方が小さいのですが、例えば86ページの「炒める」というところを見ると、東京書籍の82ページの「炒める」に比べて開隆堂の方が内容が充実している気がします。

伝統のことについては、まとめて書かれています。簾戸は私の家では取り替えています。今時そんなことをしている人はあまりいないので、どうなのかなと思ったりします。

教育委員

私も、内容は開隆堂の方がいいと思っていました。考える力を子どもたちに与えているというか、「自分たちで考えよう」ということが結構いろいろところで書かれています。そこは開隆堂の方が優れていると思います。

教育委員

QRコードは、開隆堂の方がその都度出てきて動画が見られるので、こちらの方が使いやすいだろうと思いますが、本当に甲乙つけ難いです。

教育委員

写真などは東京書籍の方が見やすいですが、開隆堂の方が、「振り返ろう」とあり、その後「生活に生かそう」というところまで展開している点が良いと思いました。QRコードも見つけやすいです。東京書籍は最後までどこにあるのかよく分かりませんでした。

教育委員

最初に少しあって、それで全部対応しているのです。

教育委員

そうなのですね。

教育長

それでは、開隆堂を支持するご意見が多かったような気がしますが、再度確認させていただきたいと思います。家庭科については、開隆堂出版を採択するというところでよろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

教育長

ありがとうございます。

それでは、本日予定していた3種目の審議が終了しました。確認させていただきます。保健は東京書籍、「特別の教科 道徳」は日本文教出版、家庭科は開隆堂出版を採択しました。

次回は8月5日月曜日、夕方5時から、この会場にて5種目の審議を行いたいと思います。かなり種目が多いので、若干遅くなるかもしれませんが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

以 上

令和元年 第3回教育委員会定例会議 会議録

1 日 時 令和元年8月5日(月)
開会 17時00分
閉会 20時00分

2 会 場 金沢市庁舎 4階 兼六会議室

3 出席委員(7名)

教育委員長	野 口 弘
教育委員	田 邊 俊 治
〃	早 川 芳 子
〃	岡 能 久
〃	大 島 淳 光
〃	丸 山 章 子
〃	木 村 陽 子

事務局	教育次長(兼)学校教育部長	高 村 政 博
	担当部長(兼)学校指導課長	寺 井 義 春
	学校指導課担当課長(兼)課長補佐	青 山 雅 幸
	学校指導課主席指導主事	貞 廣 賢 了
	学校指導課主任指導主事	古 川 雄 次

金沢市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会

委員長	松 原 道 男
副委員長	加 藤 隆 弘

教科用図書調査委員

4 案 件

非 議案第13号 令和2年度使用小学校教科用図書の採択について (学校指導課)

5 議事の経過等 以下のとおり

議案13号について非公開で審議に入り、小学校教科用図書のうち、国語、書写、音楽、図画工作、英語について採択を行った。

[案件の説明及び諸報告について]

案件について、別添資料等に基づき事務局より説明・報告し、原案どおり承認された。

[主な質疑・応答の内容について]

○ 議案第13号 令和2年度使用小学校教科用図書の採択について(学校指導課)

○ 種目「国語」

[国語：説明の概要(選定委員長)]

4者の発行者について調査研究し、特に優れている点について答申書に示した。

東京書籍は、単元の初め、終わり、巻頭に「言葉の力」として付けたい力を明記することで、

基礎的・基本的な事柄の習得ができよう工夫されている。単元の初めには「おぼえているかな」が示され、既習事項を巻末の「言葉の力」や前単元で確かめることができるよう工夫されている。

学校図書は、クイズやゲームなど、児童の興味・関心が高まる言語活動が設定され、目的意識を持って教材に向かうことができよう工夫されている。

教育出版は、図や表、写真等が豊富に掲載され、特に物語の山場では、挿絵を大きくするなど、学習内容を的確につかんだり、想像を広げたりするよう工夫されている。

光村図書は、単元のゴールとなる言語活動が明確に示され、見通しや目的意識を持って活動ができ、学習指導要領の3観点に沿って振り返ることができるよう工夫されている。単元ごとに読みの力が活用できる本の紹介がされ、巻末には読みの交流の言語活動例が示されるなど、目的を持った読書が行えるよう工夫されている。

参考までに、選定委員会の調査委員長に対する質疑応答の内容及びその後の議論について報告する。質問としては、項目9の「自分で みんなで 考える 金沢型学習スタイル」に基づく観点では、ペアやグループでの交流が書かれており、光村図書の評価が高い点についての質問があった。それについては、どの発行者も学びの中でペアやグループを取り入れているが、光村図書は話し合いの目的、手順が分かりやすく優れているということだった。

次に、教科書が上下に分かれているものと、そうでないものについての質問があった。それについては、5・6年生において、東京書籍と光村図書は1冊にまとまっており、1年間の見通し、1年間で付きたい力を常に確かめながらという利点はあるが、重くなるという問題点もある。他の発行者は分冊だが、既習の振り返りが工夫されているので、分かれていても特に支障はないということだった。

次に、東京書籍、光村図書の秀逸な部分と課題についての質問があった。それについては、東京書籍、光村図書ともに、付きたい力が明確に示されていて、学習の見通しという点で甲乙つけ難い。光村図書は、読書指導で読んだことを基に、友達と意見を交換したり本を楽しんだりすることができるという言語活動が示されていて、読書に親しむという点では工夫されているということだった。

次に、光村図書などは教科書の後ろに資料があるが、どのように授業で用いられるのかという質問があった。それについては、普段の授業の中でも使い、自分の思いに合った言葉を見つけよう、既習をもう一度振り返ろうという場面で、単元の中で使っているということだった。

次に、インターネットで調べる活動やプレゼンテーションの学習についての質問があった。それについては、インターネットを使う、使わないではなく、情報をどのように分類したり、自分に取り入れたりしていくかという点では、光村図書は年間を通じて幾つかのコラムのような形で挟み込んであるということだった。

その後、選定委員会の議論では、知識・理解、思考・判断・表現、学びに向かう力の3観点について、光村図書は単元ごとに「振り返ろう」という項目があり、トータル的に秀でているのではないかという感想があった。また、東京書籍と光村図書にあるように、どんな力を付けるための物語文か、あるいは説明文かということが明記されている教科書が、若い教師も授業としてぶれなくてよいのではないかという感想があった。

[国語：質疑応答]

教育委員

どの発行者もそうですが、例えば光村図書では、1年生からずっと巻末に付録があり、「学習を広げよう」など、大切なところをもう一度繰り返して学習できるようになっています。とても良いのですが、この付録を先生方はどのように活用しているのでしょうか。

選定委員長

その話は選定委員会でも出て、調査委員長からも報告がありましたので、より詳しい内容は調査委員長から説明していただきます。

国語調査委員

巻末の付録には、それぞれの単元で学んだ大切なこと、国語で付けたい力に関わることがまとめて記載されています。国語は算数などと違い、既習が次の単元で使われていくことが薄くなりがちですが、どの先生も単元で学んだことを他の単元でも既習として生かしていくことが必要になってきます。そういった点で、巻末の付録でもう一度見直す形になっています。国語の既習として付いた力を教室に掲示してある学校がよくありますが、どんな力かを簡潔に記載してある付録のページは、学びの足跡として学校の教室環境に残しておくということでも、先生方に活用されています。

教育委員

先ほどの説明の中で、上下に分かれているのと1冊にしてあるのが2者ずつあったと思います。1冊にしているところは、1年間の見通しを立てて目的意識を持つということを強調されているわけですが、逆に分かれているところは、そのあたりはどのように教科書の中で対処しているのか、何かご意見があれば教えてください。

選定委員長

分冊にしている発行者も、既習の振り返りを工夫されているので、取り立てて分かれていることによる支障はないということですが、具体的なことについては調査委員長からお願いします。

国語調査委員

1年生から4年生までは、どこの発行者も分冊になっていて、5・6年は光村図書と東京書籍が合冊になっています。5・6年生になると、1年間を見渡して自分たちの学びを振り返りながら学習していくという、既習を生かす力がより求められていくと思います。例えば6年生の最後に、1年間どういう学びを経て中学校に向かっていけばいいのかという、見渡すという点では、合冊の良さはあると思います。しかし、分冊だとそれができないかということ、学校に持ってくればよいことなので、できないこともないと思いますが、1年間を見通すということでは、合冊がより使いやすいのではないかと思います。

教育委員

先生方のQRコードの使い方について質問します。QRコードは、発行者によって少しずつ内容が違ってきます。例えば、くまさんの話が動画になっているものもあり、とても楽しいです。しかし、児童が勝手にアクセスしないよう、最初に注意事項を皆さんに徹底していただく必要があると思います。また、もしかしたらiPadやスマホを持っていない家もあるかもしれません。先生方には公平感を持っていただき、うまく利用していただきたいと思います。そのようなディスカッションは先生方の間でありましたか。

選定委員長

選定委員会では、国語のQRコードについてはあまり話題に出ていませんでしたが、調査委員会の方で出ていけば、ご説明をお願いします。

国語調査委員

4者とも、発行者によってQRコードでの情報提供がされていることは確認しました。そして、どのような情報提供がされているかを調べました。光村図書は、多種多様な動画が盛り込まれており、物語の作者や説明文の筆者の思い、作者情報という点で、今まで指導者側が必要に応じて子どもたちに情報提供していたことも、本当に充実していると思います。ただ、いつ、どの場で子どもたちに提供するかということの間違えてしまわないように留意する必要があります。私が個人的にとってもいいと思ったのは、「話す・聞く」の単元のところで、望ましい話し合いの様子が、今まではCD音声だけだったのが、表情まで分かるようになったことです。うなずきながら聞くとか、質問するときの表情、聞くときの表情も、指導のときにモデルとして提示できて、どの先生も使えるという点では良いと思います。一方で、例えば説明文のところで親切に様子も全て分かるようなもの、

例えば「うみのかくれんぼ」で隠れる様子が動画で出ているのですが、それを最初に見せてしまうと読む必要性を感じなくなってしまう恐れがあるので、どのタイミングで見せるか、本当に見せる必要があるのかどうかは、指導者がより吟味していかなければならないと思っています。ただ、学習面で理解が難しいお子さんにとっては、読んでイメージできないことを後から見て納得するという使い方もできるので、その点で光村図書は大変充実していると思います。

同様に動画が作られていたのが教育出版です。東京書籍は、どちらかというと習熟の部分が多く、音読は音声のみです。学校図書は、図書資料としての情報提供や外部リンクのところで、他のサイトで情報を得るという活用の仕方でした。指導者は目的に応じて使い方を考えていかなければならないと思っています。

選定副委員長

私がお話ししようと思ったことを、今おっしゃっていただいたのですが、その他、幾つかお話しさせていただきます。一つは、学習者用のデジタル教科書が本格的に入ってきました。理解や力の差が多様な子どもたちがいる中で、本を読んでもなかなか理解できない場合、あるいは、挿絵や文章のどこを見ていけばいいのかというときに、映像と文章と音声で理解していくことは、分かり直しの際には非常に効果的な手段になります。ただ、家にiPadやスマホがあるかどうかで、若干、不利になるケースも考えられます。それについては今後の課題になってきますが、学校での環境を十分に整備しながら、必要に応じて、子どもたちが自分で見直しできる機会をしっかりと提供していくことが大事になってくると思います。

もう一つは、実際には指導者用のデジタル教科書を併用していくことになると思います。例えば、同じ「大造じいさんとガン」でも、発行者によって2人の俳優が違った読み方をしてします。どちらがどう違うかは、実際にみんなで聞きながら考えないと議論にならなかつたり、学び直しにならないような仕掛けもあつたりします。ですから、そのあたりは先生がコーディネートしながら学習を進めていくところです。子どもたちが先に見たり聞いたりしていたとしても、またそこから学級で学びをつくっていくという仕掛けもできます。それぞれの特徴があるので、採択された場合には、学校でそういう活用をしていただければよいのではないかと考えています。

教育委員

先ほど分冊の話が出ていましたが、国語に限らず、お子さんを持つお母さんから、教科書がすごく重たいという声があります。私は4年生までは分冊になっているのが適切だと思います。5・6年になれば体力も付いてくるので1冊になってもいいと思いますが、やはり分冊を進めていった方がよいと思います。

それから、光村図書を見せていただいたときに、確かに学習の目標が明確になっているような気がしました。ただ、ページの開きのところで前と後ろが分かれてくるというのは、できればページが変わったときに新しい単元に移る方が読みやすいのではないかと感じました。そういうことは全然話題にはなりませんでしたが。

国語調査委員

見開きで見たらよいところはどこかという話題にはなりました。光村図書や東京書籍は、扉のところで、新しいページを開いて教材が始まるという形で、導入のページを1ページ新たに設けたというのが、今年変わったところです。単元との出合いを大切に、あえて1ページを取ったのではないかと思います。

もう一つ、見開きで大事だと思ったのは、「学びの見通し」のところで、「とらえよう、ふかめよう、まとめよう、ひろげよう」ということで、この単元をどのように学習していくかが見開きで2ページにわたって示して

あることです。これは大変見やすいと感じました。東京書籍については、先ほどと同じように導入として1ページ使っておりますが、残念ながら学習の見通しのページは見開きになっておらず、次のページにまたがったりします。そこが見開きの大事なところかと思って捉えていました。

教育委員

幾つか質問のあった分冊になっているか合冊になっているかというのは、これまではどうだったのかは覚えていますか。

国語調査委員

記憶をたどりますと、前の改訂のときも同じで、その前も今と同じようなスタイルだったと思います。

教育委員

では、各者こういう伝統で貫いているのですね。一長一短ありますし、高学年になれば力があるので大丈夫だろうということも見据えてのことだと思います。

各者それぞれ特色がありますが、国語の場合、特に子どもたちのノートの取り方が大事な指導の観点になると思います。ノートの取り方を結構丁寧にして示している発行者もあれば、簡略に示しているところもあると思いますが、ノートの取り方について特色のあるところや、あるいは、こんなことが指導に活用できるのではないかということはありませんか。

国語調査委員

調査したところ、現在確認できるものとしては、2者がノートの作り方を示していたと思います。東京書籍は、2年生から6年生まで1ページずつ、発達の段階に応じて示されています。学年が進むにつれて根拠・解釈を含めて考えを書くようになり、友達の考えを取り入れてまとめるという形が勧められています。学校図書は、中学年と高学年の3年と5年に示されていました。これも今申し上げたノートの使い方と同様です。3年生の上の28ページに「自分だけのノートを作ろう」という例が示されています。同じように、東京書籍の3年の上の28ページでも、めあてがあり、考え、理由、友達の考えがあり、まとめという形で示されています。金沢市でも、国語のノート作りという点で、課題を書き、自分の考えを書き、友達の考えを含めて最後にまとめていくというスタイルで多くの学校は統一されているかと思えます。従って、両方とも、おおむね金沢市の学校のノートの作り方と似ていると言えます。

教育委員

そういう記述を教科書に盛り込んでいるということですね。

○種目「書写」

[書写：説明の概要（選定委員長）]

5者の発行者について調査研究し、特に優れている点について答申書に示した。

東京書籍は、見開きの左ページに「書写のかぎ」コーナーを用意し、その単元で学習する内容のキーワードが明確になるよう工夫されている。

学校図書は、毛筆で学習したことを硬筆に生かすために、硬筆で書き込める欄が豊富に用意され、学習を振り返ることができるよう工夫されている。

教育出版は、「レッツ・トライ」では各教科のノートや聞き取りメモの書き方、学習のまとめ方が分かりやすく示され、学習内容が他教科等に生かせるよう工夫されている。

光村図書は、キャラクターを用いて筆遣いや運筆のリズムが示されたり、着想のヒントが与えられたりしており、筆の動きが分かりやすいよう写真資料の充実が図られている。

日本文教出版は、各教材で学習する基礎的・基本的な内容が電球マークで示され、キーワードを赤字にすることで学習内容が定着するよう工夫されている。

参考までに、選定委員会の調査委員長に対する質疑応答の内容及び、その後の議論について報

告する。まず、書写に費やす時間についての質問があった。それについては、金沢ベーシックカリキュラムでは毛筆を30時間確保することになっており、各者とも30時間は確保できるように配慮されているということだった。

3者に、デジタル教材や、QRコードを読み取ったりURLを打ち込んで運筆などを見せる動画の教材があったが、それについてはどう検討したか。また、実際に活用されるのかという質問があった。それについては議論しているところで、活用されてきていることを生かしたいという話は出たが、調査委員会では、そこについて十分な論点にはならなかったということだった。

その後、選定委員会の議論では、光村図書では気を付けることや間違いやすいところに丸や青三角があり、気を付けながら学習できるのではないかという感想があった。また、そのページから、そこに書かれているものの筆遣いなどを映像で見られる動画があり活用しやすいという感想があった。また、東京書籍の1年生の教科書は、書き順がきちんと色分けされているので、子どもたちが早い段階で正しい書き順で覚えられるという感想があった。

また、書写が苦手な教師は、動画などを使って子どもに見せている先生もいるし、水書板で先生自らが大きく筆を握るのもよく、必要ところで動画を使っていけばよいという意見があった。

また、教科書そのものにプラスアルファで、動画やデジタルコンテンツがかなり入ってくるので、採択に当たっては、いろいろな要素が入り始めており、今後、検討項目に入れていく必要があるのではないかと。また、それらの情報があらかじめあった方がよいのではないかとという意見があった。

[書写：質疑応答]

教育委員

東京書籍の3～6年生では、左利きの児童のために、小さな写真で、すずりを反対側に置きましょうという説明があります。他者でも同じような説明があるのでしょうか。見つけられなかったので教えてください。

書写調査委員

東京書籍では左利きへの配慮は十分されていると思います。例えば硬筆の手本があったら、必ずその下に書けるようにして、手で手本を隠すことがないような配慮がされています。他のところも、左利きについては配慮はされていますが、特別、文言として教科書には載っていません。

教育長

基本的には東京書籍の方がしっかりされているということです。

教育委員

サイズは、東京書籍のみ若干大きくて、その他は同じぐらいだと思います。特に毛筆の場合は、いろいろな道具を置きながら授業を進めていくこととなりますが、サイズについては、何か意見や質問はありましたか。

書写調査委員

東京書籍はA Bサイズで大きめです。ランドセルには入るサイズですが、ご指摘があったように、机の上に置いて書くという点では不便な面もあるかと思います。ただ、大きいサイズということで、例えば1年生は硬筆で大きく書いたり、手の置き方が実寸大で分かるなど、ダイナミックな筆遣いが見えるという面もあるかと思います。

教育長

表裏一体ということです。

教育委員

実際に子どもたちが見本として机に置いたときに、机の上がごちゃごちゃしているとか、半ページの見本や2ページ分を使った見本もありますが、そのあたりについては何か話題がありましたか。

書写調査委員

大きさや置き方については調査委員会では話題にならなかったのですが、授業では、最初に教科書や道具の置き方をしっかり指導した上で授業を進めています。

教育委員

光村図書の場合、1年生の教科書の最初のところに書写体操というのが載っています。スポーツをするときと同じように準備運動をするということで、これはすごく良いことだと感じました。他の教科書も、そういうことが書いてあるものもありましたが、小さく書いてある程度だったので、2ページを使ってすごく大胆に記載されていることについては、やはり話題になったでしょうか。

書写調査委員

そこは調査委員会でも話題になりました。1年生が喜びをもって書写の活動に入る最初のところで、書写体操をきちんと入れていることは、やはり効果的であると思います。どちらかというと、きちんとしなければいけないというところから入っていくものが多いのですが、こちらは「書写って、楽しいよ」というところからスタートしています。こういうところは光村図書は大変配慮されていると感じます。

教育長

それでは、ここからは審議に移りますので、選定委員長、選定副委員長、調査委員長にはご退席をお願いします。

(選定委員長、選定副委員長、調査委員 退室)

[国語：審議]

教育長

まず、国語についての審議を始めたいと思います。前回と同じように、途中でご質問等がありましたら遠慮なく申し付けていただきたいと思います。委員の皆さまには既に教科書を見ていただいておりますので、今日は1者ずつというよりも、自由な意見交換という形で、どの教科書の話でも結構ですので、ご意見があれば頂戴したいと思います。

教育委員

国語の教科書は、光村図書と東京書籍が本当に上手に作られています。感心することばかりですので、どちらが選ばれても、子どもたちにとってはとても良い教科書になるのではないかと思います。光村図書の「この本で学習する皆さんへ」がとても気に入りました。このマークが何度も出てきて、大切なことがたくさんあるのだと分かった上で次に進んでいくことができます。また、QRコードについては、ここには学習の助けとなる資料にアクセスできるけれども、読み取る時には必ず先生やおうちの方と一緒に行きましょうと書かれています。いろいろな問題があると思います。このような新しいものが取り込まれたときに、最初のページにマナーや大切なことを守らないと利用できないとききちんと書かれているのは良いと思いました。この印はすごく分かりやすいです。出典もしっかりしていますし、イラストも色が穏やかです。もちろん、他者の教科書もきれいな色がたくさん使われていますが、こちらは少し穏やかな感じがして、甲乙つけ難いけれども、私としては光村図書の国語が良いと思いました。

教育長

光村図書と東京書籍の2者の名前を出していただき、光村図書については、表紙にある、これからの進め方みたいのようなところも結構丁寧に書かれているのではないかとご発言をいただきました。

教育委員

これまでもいろいろな教科で重さのことが気になっていましたが、国語に関しては、どのような状況ですか。

教育長

国語は、東京書籍がトータルで3.97kg、ページ数は1,954ページです。学校図書がトータルで3.32kg、ページ数は1,816ページです。光村図書がトータルで3.25kg、ページ数は1,938ページです。そして教育出版がトータルで3.63kgで、ページ数が1,

864 ページです。

教育委員

ページ数にしても重さにしても微妙に違うものですね。4者を見比べた場合に、単元の扱われ方が、かなり丁寧に読み取れるように構成されているという点では、光村図書と東京書籍が秀でているのではないかと思います。この2者は高学年は分冊ではないということで、場合によっては重さがハンディになりかねませんが、調べていただいた重さの結果からすると、光村図書は、ページ数は多いですが重さは抑えて上手に作ってあります。そういう形式的な観点からすれば、光村図書は秀でているのではないかと思います。

各単元の初めのところを見ると、東京書籍は、これまでいろいろな教科との関連については触れられていたのですが、国語に関してはないですね。他方で、光村図書は、これまで学習したことと、これからやることはつながっているということが丁寧に書かれていて、これまで学んだことの振り返りや関連がとても配慮されていると思います。そういうことも踏まえて、1者に絞らなければならないとすると、光村図書が良いのではないかと思います。

教育委員

私も結論から言うと、光村図書が一番良いのではないかと思います。理由としては、国語も教職員の技術が結構分かれてくるところがあると思いますので、経験の浅い教員も進めやすいという点で光村図書が良いのではないかと思います。それから、ここでこういうことを教えるのだと思ったのが、光村図書の6年生の付録「学習を広げよう」の部分です。247ページから、「課題の見つけ方、調べ方、考えを図で表す」「言葉を使って伝えるときには」「対話を通して学びあう」という技術のことが書かれていますが、社会に出ると、これの繰り返しになるので、基本を小学校のうちにある程度習っておくことは本当に重要なことではないかと思います。こういうことが具体的に書いてあるのは光村図書だけだと思うので、そういった意味でも、光村図書がよいのではないかと思います。

教育委員

東京書籍は、いつもながらすっきりとした装丁で本当にきれいで、教科書としてほとんど出来上がっていると思いましたが、4者を比べてみると、学習内容の深め方が少し浅いような気がしました。学校図書は、付けたい力がそれほど明確でないような気がしました。教育出版は、6年生の上の「哲学の対話をしよう」というのが、そういうところまで一生懸命やろうとしているのかと思って驚きました。光村図書は、国語というより生活や社会のような内容で、国語を勉強しながら一般的なことをすごく勉強できますし、学習目標も明確なので、私も光村図書が良いと思います。

教育委員

最初は、保護者の立場から子どものことを考えたときに、重いのがどうなのかなと思いましたが、先ほどの5・6年生になったら見通しを持った学習をすることが求められるという説明で、その意図が理解できました。それを考えながら見ていくと、光村図書か東京書籍かになってきますが、光村図書ですごく良いと思ったのは、「漢字の広場」というところです。ただ単に漢字を当てはめるだけではなく、文章にするというところが、応用力が付くのではないかと思いますし、見通しを持とうというところがしっかり整理できて良いと思いました。東京書籍は、青い縁取りのページでサルの絵が描いてあるところが、すごくアクセントになって、教科書全体としては分かりやすいのかなと思いました。ページ数と重さと中身をトータルで考えると、光村図書が良いのではないかと思います。

教育長

私も、金沢が大事にしている問題解決的な学習の流れがどうなのかなというところに一番こだわりながら、比較して読んでみました。特に各者の6

年生で比較してみましたが、問題解決的な学習の流れからすると、やはり光村図書が秀でていると感じました。その次に来るのが東京書籍と学校図書だと思いました。ただ、学校図書も良いのですが、字が小さ過ぎて、子どもは流れがつかみづらいのではないかと感じました。その点では教育出版も、問題解決的な学習の流れがあまり伝わってこないと感じました。

もう一つこだわったのは、作品です。子どもになじみのある作品というか、昔から読み継がれてきたような作品をぜひ読んでもらいたいと思っています。教育出版には室生犀星の作品も載っていますが、トータル的には、これまで日本の国語が大事にしてきた作品の数からしても、やはり光村図書が秀でていると感じました。もちろん、その時々で作品の中身は変わってくるのですが、いつまでも大事にしたい作品を見ていくとすれば、光村図書の方が、しっかり読んでもらえたらうれしいような作品がたくさん出ていて自分なりに感じました。それから、光村図書の最後に「言葉の広場」というところがあり、大事にしたいことがここにコンパクトにまとめられていると感じました。

それでは、そろそろ評価に入らせていただきます。何回でも手を挙げていただいて結構ですが、もしここで全員の手が挙げた発行者があれば、それを採択することとさせていただきます。それでは順番に挙手をお願いします。

—挙手—

教育長

全会一致で、光村図書の教科書を採択することに決定させていただきます。

[書写：審議]

教育長

書写について審議を行います。自由にご意見を頂戴したいと思います。

教育委員

一つ質問があります。例えば、書写と国語で選ぶ発行者は呼応しなければいけないという点は全く考えずに、書写は書写だけで選べばよいのですよね。

学校指導課長

特に同じ発行者であった方がよいということはありません。それぞれで考えただけであればいいと思います。

教育委員

1年生は、「今日は道具もいっぱい持ってきたし、今から何があるんだろう」と、どきどきしている状態だと思います。光村図書は、最初に「書写体操をしましょう」ということで、かわいい絵が出ています。これはQRコードを読むと体操の動画にアクセスします。光村図書は国語でもQRコードがとても充実していました。書写でも、体操のところで動きを見せてくれて、これが最初にあるのはちょっとうれしいなと思いました。しかも、書写は姿勢がすごく大事なので、姿勢を良くするには最初にストレッチをするのは大切です。また、どのページも、書かれている分量がとても少なくてすっきりしています。特に1年生は、あまりたくさんの情報が目から入ってきてても分かりにくいと思います。そういう点で配慮されていますので、全体的に光村図書が良いと思います。一つだけ残念なのは、左利きへの考慮をどこかに入れていただきたかったということですが、先生がおっしゃってくだされば、それで十分だと思います。

教育委員

やはり光村図書がすっきりしていて良いと思います。東京書籍は、象形文字一つにしてもたくさん書いてありますが、これは先生が書けばいいことで、三つぐらい載せておけば十分ではないかと思います。全体的にすっ

きりしている光村図書を推したいと思います。

教育委員

書写は、たくさん発行者があって甲乙つけ難いですが、もう一つ書写体操を載せているのが東京書籍です。東京書籍は体全体の体操で、光村図書は手をほぐすような体操で、書写体操にもいろいろ種類があるのだと思いました。先ほどご指摘があった、すっきりしていることや、文字の練習量が比較的多いということからすれば、やはり光村図書は、はねたり止めたりという文字の書き方もそれぞれ丁寧に書いてあり、総合的に分かりやすい教科書作りになっているのではないかと思います。どれも遜色ないという印象を持つ一方で、使いやすさと練習量の豊富さという点で、光村図書が良いのではないかと思います。

教育委員

私の中では、光村図書か東京書籍に絞られています。この二つを比較したときに、先ほど少し話が出たように、机の上がいっぱいになっている中で、東京書籍の教科書は大きさが気になるのと、見本の文字が紙の真ん中に来ていないことが気になりました。大きさと関連があるのだと思いますが、見本の見やすさや分かりやすさからいって、光村図書が良いのではないかと思います。

教育長

光村図書を推す声はかなり上がっています。一応、東京書籍を推す声もありますが、教科書の大きさについて机の上の限られた広さの中ではどうなのかということがあります。他の発行者についても、様々に工夫の必要があるのではないかと思います。

私から教育委員の皆さんに伺ってもよろしいですか。学校訪問に行くと、いつも気になるのは子どもの鉛筆の持ち方なのです。鉛筆の持ち方という視点から考えると、もちろん鉛筆の持ち方と筆の持ち方は全く違うのですが、どの教科書が良いと思われませんか。

教育委員

私も鉛筆の持ち方がすごく気になっています。5者の教科書を拝見して、基礎の持ち方を考えたときに、私は鉛筆と筆に関しては教育出版が良いのではないかと思います。しかし、全体を考えると東京書籍か光村図書が良いのではないかと思います。学年ごとに最初のページに鉛筆の持ち方を載せたらどうかと思うほどです。

教育委員

今回、光村図書に、手紙の書き方というのがあります。ぜひ子どもたちには永久保存してもらいたいですし、その永久保存には光村図書の教科書が適しているのではないかと思います。

教育長

最近はメールなどがあるので、手紙やはがきで書くことが少なくなってきていますし、その後どうなるかを見据えて光村図書が良いのではないかと思います。

私は、字を書くのがとても苦手なので、筆遣いを子どもにどのように丁寧に示しているかに一番注目して見ていました。その視点からいくと、東京書籍と光村図書の教科書が丁寧に表示されていると思いましたが、トータルバランスからいくと、光村図書の方がしっかりと編集されている感じを受けました。光村図書の6年生の教科書は、他者と若干違った内容で構成されているところがあります。これは中学校に行くときに学びが繋がっていくと感じました。

それでは、そろそろ評価に移ります。何回手を挙げていただいても結構です。拮抗すれば、その段階でまたご意見を頂戴したいと思います。全会一致であれば、そのまま採択を決定させていただきたいと思います。

—挙手—

教育長

それでは、書写についても全会一致で、光村図書を採択することに決定させていただきます。

○種目「音楽」

[音楽：説明の概要（選定委員長）]

2者の発行者について調査研究し、特に優れている点について答申書に示した。

教育出版は、見開きを使った大きな紙面で美しくダイナミックな写真が掲載されており、歌唱表現において児童のイメージを膨らますことができるよう工夫されている。「学びナビ」を活用し、教材の学び方の見通しや、思考のヒントをつかみ、自分の考えを持つことで児童の主体性が促されるよう工夫されている。

教育芸術社は、音楽的諸要素等が「新しく覚えること」及び「ふりかえりのページ」に示され、繰り返し活用することにより基礎的な能力が定着するよう工夫されている。「音楽づくり」の学習において学年の発達段階に応じた手順が示されているとともに、学習内容の系統性及び発展性の充実が図られている。

参考までに、選定委員会の調査委員長に対する質疑応答の内容及び、その後の議論について報告する。教育芸術社で旋律が学年の段階を追って図でも見えるようになっているが、実際の授業での活用についてはどうかという質問があった。それについては、音楽づくり、旋律・ふしづくりは、たくさん先生が行っており、自分たちで旋律線をつくりながら音楽操作するというところで、3年生から6年生まで簡単な作業から音楽づくりができるようになっているということだった。

教育芸術の旋律を図形で示している点が良いが、それは答申書を作成するに当たっての主要な評価に入っているかという質問があった。それについては、教育芸術社は6番目の調査項目のところで、「音楽づくりについての発達段階に応じて」に入っているということだった。

鍵盤ハーモニカやリコーダーの吹き方など技術的な面で使いやすいのはどちらかという質問があった。それについては、リコーダーについては、教育芸術社は指遣いのところで指穴に反映した図が載っており、また、立ったときの姿勢と座ったときの姿勢も載っている。最初に習う曲の長さが、教育出版の方少し長いので子どもたちに負担があるかもしれない。教育芸術社の方は簡単であり、技能の取りかかりが比較的遅い子にとっても負担のない学習ができるということだった。その後の議論では、旋律が図で見やすく、リコーダーの吹き方など、教育芸術社の方が使いやすいのではないかという感想があった。従来の練習や鑑賞から、最近では子どもたちもさまざまな形で活用していくところから、音楽により親しんで鑑賞・活用していくような工夫を選定において見ていく必要があるという意見があった。

[音楽：質疑応答]

教育委員

これまでも各教科でフォーカスされていましたが、QRコードについては何か意見や質問はありましたか。

選定委員長

選定委員会では特にQRコードについてはありませんでしたが、調査委員会で話が出ていれば、調査委員長にお願いしたいと思います。

音楽調査委員

QRコードの話題は、2者ともにありました。載せ方が違うということで、その話をしたいと思います。まず教育出版は、QRコード、2次元コードが目次の右下に入っており、そこで読み取れます。残りは「まなびリンク」という名前ですが、QRコードはここだけです。教育芸術社は、それぞれの鑑賞教材や資料等に付いているので、この点でいうと、教育芸術社の方が即座に読み取れて使いやすいのではないかと思います。内容を見たところ、二つとも鑑賞教材の資料、インタビュー、楽器の

使い方など、内容自体はそれほど大きな差はありませんでした。

教育長

教育芸術社のQRコードの上に解説文が載っていますね。その内容が、このQRコードの中に入っているということですか。

音楽調査委員

各学年、教育出版も教育芸術社も、QRコードを開くと羅列で目次が出てきます。ですから、そこに直接リンクするわけではなく、例えば6年の教科書でいえば、まずは6年の全てのデジタルコンテンツのところに行き、そこからまた選ぶという形になっています。

教育委員

音楽の学科目は、必ず音が関わってきます。理想的に歌っているものや鑑賞で子どもたちに聞いてもらわなければいけない曲として、日本の曲や海外の曲、クラシック、現代音楽など多様にあると思います。聞きましょうマークとQRコードがありますが、これは、先生が音を用意して子どもたちに必ず音を聞かせるのですね。聞かせて、さらにその上の知識を得るというような使い分けはあるのでしょうか。

音楽調査委員

音楽の場合は、CDや鑑賞用DVDは準拠したものが販売されていますし、各学校では、ほぼそれを活用しています。音楽科では、音楽室に大きいテレビがあり、それにDVDプレーヤーをつなげていくということが従来から行われています。ただ、資料が足りない場合は、今後はQRコードが活用されるようになっていくと思いますが、現段階ではQRコードに入っているものもほんのわずかで、各学年で6コンテンツほどしか入っていないので、これは今後の課題だと思います。

教育委員

二つの発行者で、掲載されている素材は同じものもあれば違うものもありますが、教科書の作り方として、音楽に必要な要素の理解ということでは、教育芸術の方は、ページのナンバリングの脇に、いろいろな音楽を捉える要素がたくさん書いてあります。他方、教育出版ではそういうことが全くないというのが大きな違いとして目につきます。実際、こういうものがあると、音楽を指導する上で役に立つのかという点ではいかがでしょうか。

音楽調査委員

教育出版の方にも何ページか出ています。例えば「音楽のもと」ということで、音楽に関わる要素が出ています。ただ、ご指摘されたように、教育芸術社の方が丁寧にそれぞれの教材に対して出ています。例えば私ども専科の教員であれば分かりますが、担任の先生方も、どういう曲をどういうめあてで子どもたちに習得させるかを知る上では、ご指摘のように教育芸術社の方が使いやすいと思います。

教育委員

やはり、あると使いやすいということですね。

教育委員

教育出版の方で、全部の学年ではないと思いますが、透明のシートが入っています。これについてどのようなご意見があったのでしょうか。また、見開きがダイナミックであると評価されていますが、実際にこれが必要なのかどうか、あった方がいいのか、ない方がいいのか、現場としてはどうなのかというところのご意見を頂きたいです。

音楽調査委員

透明シートは3年生と5年生の2ページ分です。3年生は音楽の五線譜やト音記号、5年生はオーケストラの楽器を見やすくしていますが、それは透明シートが必ずなければいけないわけではありません。ただ、前回も教育出版は透明シートが一つの売りだったのではないかと思います。また、大きな写真は、とても見やすく、子どもたちはイメージがつきやすいと思

いますが、それも各学年1曲ずつ、いわゆる文部省唱歌に当たるものを中心に、3～6年で1ページずつなので、それほど画期的な効果があるとは私たちは思っていません。むしろ、どういう写真であっても、子どもたちにある特定のイメージを植え付けてしまう可能性もあります。そこは、その写真を先生方がどう活用するかに懸かっていると思います。

教育委員

それぞれの教科書に、篠笛や箏曲など、日本の伝統が感じられるようなページがありますが、これらは、CDか何かを聞くのですか。

音楽調査委員

教育プラザに篠笛や琴などがあり、数人の先生は年度初めにそこから借りて、実際に子どもたちに弾かせることはあります。私も、篠笛なら学校で何本かそろえることができるので購入して吹かせましたが、やはり子どもたちは、西洋のものとは違う日本の伝統音楽に触れ、その受け止め方に非常に効果があったと思いますので、その点については今後も増えていくと信じています。

教育委員

西洋音楽ばかりが義務教育に取り入れられています、こういうものは日本人にとって大事なことだと思いますので、取り入れていただきたいと思います。よろしくお願いします。

教育委員

音楽の教科書は内容がすごく充実している気がしますが、今の質問にもあったように、邦楽や洋楽があり、全部はできないのではないかと、教科書の半分ぐらいしか教えられないのではないかと思います。この教科に限ったことではないと思いますが、その辺について現場の声を聞かせていただければと思います。

音楽調査委員

おっしゃるとおりです。教育出版の場合は、目次のところで、中心的に学習してほしい主要部分と、選択部分に振り分けてあるところがあります。ただ、主要部分が全部できるかどうかは時間の問題です。教育芸術社の方は、特にそういう指定はありませんが、題材の中で行われるものについては、金沢のベーシックカリキュラムの方で押さえてありますし、曲集として各学校が選択しながら使えるものもあるので、ある程度の曲数はあり、先生方が取り組める状況であればいい良いと思います。全てのことはできませんが、その中で子どもたちの実態に合った曲を選び、音楽の授業を充実させることが、各学校の音楽の特徴になっていくのではないかと思います。

教育委員

教科書のサイズですが、1・2年生は軽い方が良いとの配慮で、少しだけ小さくなっているのでしょうか。

音楽調査委員

教育出版は1・2年生が若干小さく、3年生以上が大きめです。教育芸術社は同じ大きさです。大きさだけではなくページ数も調べてみましたが、合わせたページ数はどちらもほぼ同じということで、厚さという点では、それほど違いがあるとは判断していません。

教育長

私から1点、聞いてもいいですか。最近、学校訪問をしていて気になっているのが、音楽の授業は、専科の先生が指導することが多いのか、それとも学級担任の先生が指導することが多いのかということです。そこが最終的に決めるポイントになってくると思うので、教えていただけますか。

音楽調査委員

低学年は、主に学級担任が指導することが多いです。学校にもよりますが、音楽の専科の先生がいる学校では、例えば3年生以上は専科の先生が持ち、1・2年生は担任の先生が持たれています。音楽が苦手な先生もい

ますが、そういう中でも、1・2年生の先生と教材研究をしたり、自分の授業を見てもらい、「こんなふうに伴奏しよう」「子どもたちをこんなふうに盛り上げよう」「意識を高めよう」という話は各学校で行われていると思います。今年度、私が所属する音楽の小教研グループでは2人の先生が研究授業をされますが、どちらも担任の先生ということで、若い担任の先生が意欲的に音楽をされている姿も見られます。

教育委員

教育芸術社の6年生の29ページに変声期のことが記されていて、「無理のない歌い方を工夫しましょう」と書いてあります。たったこれだけなのですが、これはすごく大事なことです。日本の子どもたちや若者は、もはや声帯を痛めてしまっていると、海外の方に指摘されたことがあります。これは両方の教科書に載っているのでしょうか。

音楽調査委員

変声期については、教育出版の方は私たちはチェックしていません。中学校になると混声三部合唱といって、男の子は下の部を歌うので、その準備段階として、ほとんどの小学校では、高学年の子たちも、卒業式などでも裏声を使います。それも無理せずということです。ただ、恥ずかしくてなかなか歌えないという現状はありますが、発声について私たちは子どもたちに無理をさせるようなことはありません。私もこんな声ですが、裏声を出せますし、他の先生方も出せるので、そのようなことも学習させて、子どもたちの声を大事にしていきたいと思います。

○種目「図画工作」

[図画：説明の概要（選定委員長）]

2者の発行者について調査研究し、特に優れている点について答申書に示した。

開隆堂は、「造形の引き出し」では、材料と用具の扱い方や技法等を詳しく掲載し、「形や色のショートチャレンジ」では、共通事項を学べるよう工夫されている。1年では幼児期の活動を意識した題材、6年では中学校での活動を意識した実践が取り上げられ、幼保小や小中の接続が図られるよう工夫されている。

日本文教出版は、児童の言葉やキャラクターのアドバイスが的確かつ具体的に示され、発想や構想を広げたり、深めたりすることができるよう工夫されている。巻頭のオリエンテーションページでは、活動に見通しを持たせ、「ひらめきポケット」では、制作への興味・関心が高まるよう内容の充実が図られている。

参考までに、選定委員会の調査委員長に対する質疑応答の内容及び、その議論について報告する。項目5のプログラミング技術やプログラミング的思考はどの部分かという質問があった。それについては、日本文教出版は、アニメーションを作るという題材で、撮った写真をつなげていくアニメーションになる。開隆堂は、光を扱った作品で、作品を撮った写真をつなげていくという題材ということだった。

その後、金沢でのプログラミング教育のねらいや方向性についての質問と議論があった。プログラミングそのものとして捉えるだけでなく、デジタルを使って描画したり、順序よく組み立てるなどのところで触れていくことになるということで、図工ではプログラミング教育が明確にされていない状況ということだった。また、プログラミング的思考で順序を組み立てる部分を鍛えるということが入ってきているという説明もあった。

[図画工作：質疑応答]

教育委員

日本文教出版ですが、児童の言葉やキャラクターのアドバイスが的確かつ具体的に示され、発想や構想を広げたり深めたりすることができると思いました。具体的に、どこに、どのように示されているのか説明していた

だけるとうれしいです。

図画工作調査委員

日本文教出版の1・2年の上の26ページ、27ページをご覧ください。粘土を使ってごちそう作りをするというページです。開隆堂にも同じような題材のページがあり、そちらの方は好きなものを作るということで、とてもよく似ていますが、日本文教出版は、作ったごちそうでパーティをするということで、子どもたちがわくわくどきどきするようなめあてを持って作品を作ることができるよう工夫されています。それから、色が付いた吹き出しが幾つも描いてありますが、これが子どもの思考に沿った子どもの言葉で書いてあります。この吹き出しによっても、子どもたちが自分の発想を広げられるように、子どもの実態にとっても合った言葉で表現されています。また、技術的な指導も、写真を使って粘土を伸ばしたり切ったりということを具体的に紹介されていますし、黄緑色の絵の具のキャラクターが具体的なヒントをくれていたりします。一つの題材でも、子どもたちの発想を広げるようなヒントがたくさん掲載されていると考えています。

教育委員

先ほど、現代的な課題ということで、プログラミング学習のご説明がりましたが、教科書に沿って、どこがどういう点でというのをご説明いただければと思います。

図画工作調査委員

日本文教出版の5・6年生の上の18ページ、19ページをご覧ください。粘土を使って少しずつ形を変えたり場所を移動させていき、これを写真で一つ一つ撮ったものをパソコン上でスライドショーのようにつないでいく。NHKでもこのような教育番組があったと思いますが、あれを実際にやってみようという題材です。撮った写真を少しずつ形や場所を変えてつないでいくことが、プログラミング的思考に当てはまります。開隆堂も、粘土で作った作品を少しずつ動かすということで、ほぼ同じような題材が5・6年の上の40ページ、41ページに掲載されています。

教育委員

日本文教出版では、全ての学年を通して、単元ごとに黒板のような色で手のマーク、ハートのマーク、目のマークがあり、めあてのようなものが書いてありますが、これについては何か評価はありましたか。

図画工作調査委員

学習指導要領が新しくなるに当たり、これまでは図工科の場合は評価の観点が出示されていましたが、全ての教科で目標が三つに整理されるということで、それに合わせて図工科の各題材のめあても三つの項目に整理して示してあります。開隆堂も同じように三つのめあてで示すようになっています。

教育委員

日本文教出版の52ページ、53ページで、ひびのこづえさんと鈴木康広さんのことが載っています。どちらも著名な方ですが、小学校6年生レベルで、ここまで理解できますか。

図画工作調査委員

5・6年の下の52ページ、53ページで、現代作家の方たちが紹介されています。子どもたちの感性は本当に素晴らしく、大人が思う以上にいろいろなことを感じ取ることができると感じています。現在活躍している作家の話題や作品を日本文教出版の方が多く取り入れています。これは子どもたちにとって、とても刺激になると感じています。

教育委員

21世紀美術館ができて、私たちもその頃からコンテンポラリーを一生懸命勉強し始めたところがあります。そして、これはどのように理解するのですかと尋ねると、「その人の感じたままです」と言われて、なかなか難しい分野だと思っています。小学校6年生でこういうことが意識付

けされたら素晴らしいことだと感じたので質問してみました。

○種目「英語」

[英語：説明の概要（選定委員長）]

7者の発行者について調査研究し、特に優れている点について答申書に示した。

東京書籍は、ペアやグループで取り組む活動が豊富であるとともに、「Check Your Steps」で相手意識を持って、話したり聞いたりする活動の充実が図られている。

開隆堂は、巻頭の「CAN-DO マップ」に加え単元末の「ふりかえり」では、児童自身が振り返ることで主体的に学習へ取り組めるよう工夫されている。

学校図書は、導入単元を設け、中学年で学習した言語材料を整理するとともに、5年生で学習した表現を6年生でも場面を変えて扱い、理解が深まるよう工夫されている。

三省堂は、巻末の「CAN-DO リスト」に加え、各単元の「Hop」では「My Goal」が設定され、自分の力を確認してからめあてを立てられるよう工夫されている。

教育出版は、各単元冒頭にゴールを示すことで、見通しを持ちながら学習を進め、「Final Activity」や自己評価で学習の達成度が把握できるよう工夫されている。

光村図書は、「Review 世界の友達」や単元毎の「World Tour」に加え、日本の行事や行きたい国を取り上げて単元構成し、異文化理解が深まるよう工夫されている。

啓林館は、各単元末の「Activity」に加え、年3回の「REVIEW」では、場面や状況に応じて考え、判断し、既習を使って表現する言語活動となるよう工夫されている。

参考までに、選定委員会の調査委員長に対する質疑応答の内容及び、その後の議論について報告する。金沢市は早くから英語に取り組んでいるが、金沢市の子どもに合うものはどの教科書かという質問があった。それについては、金沢では、子どもが自分のことから友達との関わり、そして社会、地域、世界へということを大事にしてきており、ホップ・ステップ・ジャンプで学習を進めてきた。このような形があるのは東京書籍の「NEW HORIZON」であるということだった。

登場人物のキャラクター設定や挿絵、全体のストーリー性などをどう評価したかという質問があった。それについては、挿絵の話はあまり議論に出なかったが、ストーリー性で特徴があるものとしては、光村図書が、教室の場面が多く、自分たちの教室と重ね合わせてイメージしやすい。ただ、それで甲乙をつけるほどではない。写真は東京書籍が美しく見やすいが、どの者もユニバーサルデザインが配慮されていて甲乙つけ難いということだった。

光村図書は外国人のクラスメートが描かれている。実際に今、クラスで外国人の子どもたちが一緒に勉強するような時代になってきているので、その評価はどうだったかという質問があった。それについては、キャラクターについては十分に議論していないということだった。

音声や映像資料が大切だと思われるが、QRコードなど音声教材や映像資料の活用のしやすさに関する意見があったかという質問があった。それについては、調査委員会の中で十分に聞いたり聞いたりすることはできなかったが、各者ともQRコードが付き、中でも東京書籍には200カ所も付いているという県の調査結果があるということだった。

教科書そのもの書き込んでいくタイプや、三省堂の「CROWN Jr.」はグループで情報をまとめてプレゼンしたり動画を作ったりするという独自の活動場面があるが、学習活動をどうイメージしたかという質問があった。それについては、今回は書き込む教科書も多く、後ろにもいろいろなカードや名刺にするようなものが付いているなど、いろいろな工夫されているということだった。東京書籍は、使ったものをまた使えるというものがあるということだった。三省堂の「CROWN Jr.」のプロジェクト型は、思考力という観点では良いが、金沢の子どもたちはこういう学習スタイルでは経験が少ないということだった。

中学校へのスムーズな移行についての質問があった。開隆堂は文字のページを後ろに持っているのが特徴的で、これが合う子どももいるかもしれないということだった。ゲームを主体に

している教科書や、「〇〇をしよう」などの学習活動がある教科書などもあり、それぞれの良さについて調査委員会で意見が出て、それぞれについて検討したということだった。

その後の選定委員会の議論では、自分のことを伝えるためには、そこに載っていない語彙を求めてくるのが金沢の子どもたちであり、そういう意味では、東京書籍の「Picture Dictionary」のような小学生なりの辞書的なものがあつたら、子どもたちは語彙が豊かになっていく。また、単語だけではなく日常英会話の参考になり、英語が苦手な子にとっても助けになるという意見があつた。また、映像資料等について、子どもたちが授業だけでなく家庭でも聞いたり見たりすることができ、家庭学習も充実してくるだろうという感想があつた。

[英語：質疑応答]

教育委員

東京書籍の「NEW HORIZON」の5年生の最後にインタビューがあり、インタビューされている方が輪島在住の漆作家のイギリス人、スーザン・ロスさんなのですが、「石川県との関わりがあるのは良い」などの意見はありましたか。

英語調査委員

調査委員会でも、金沢市や石川県が出ていないかということで探しまして、今ほど話のあつた輪島塗は「日本のすてき」のところに載っていたと思います。「日本のすてき」は5年生の各単元に入っています。輪島在住のイギリス人をはじめ、他の全ての単元で、日本在住の日本の伝統工芸等に携わっている海外の方が紹介されています。また、先日の選定委員会で見つけていただいたのですが、5年生の表紙裏に提灯に「百万石まつり」という形で載っていて、これは金沢なのではないかという話がありました。

教育長

主計町ですね。

英語調査委員

はい。旧町名の石碑もあるので、金沢の美しい写真が採用されていることが分かります。

教育委員

QRコードを開くと歌がたくさん出てきます。チャンツもたくさんありました。先生方の間で、これは良いという声が多いのでしょうか、それとも、教えるのはちょっと難しいという声が多いのでしょうか。

英語調査委員

全者でQRコードが付いていますが、全てが出来上がっている状態ではなく、準備中というものもあつたので、全ての比較はできていません。ただ、基本本文や単語が多い中、東京書籍は映像と音が選べる、啓林館はイラストと一緒に音が聞ける、光村図書は映像が付いているということで、各者いろいろな工夫をしています。その充実度は東京書籍が一番で、聞き応え、見応えのあるものが多かったと思います。

教育委員

各者、巻末にアルファベットカードやシールなどの付録がありますが、これについてどのようなご意見がありましたか。

英語調査委員

シールがあるなど、各者工夫しており、そういうところは特徴として私たちが調査報告書に掲載させていただきました。カードについても、ミシン目が付いていて扱いやすい、ハサミを使わなければいけなくて時間がかかるなどという話をしながら見ていました。いろいろな活動のときに、ワークシートも兼ねた書き込み箇所のある教科書も増えている中で、別冊になっている東京書籍が便利だという話がありました。また、絵辞典を載せているところがほとんどの中で、東京書籍だけは「Picture Dictionary」の巻末に和英が載っています。これが東京書籍の一つの特徴であり、高学年の6年生を見ていると和英辞典を使いたがる場面があるので、便利だと

思っていました。

選定委員長

選定委員会においても、東京書籍の別冊「Picture Dictionary」に対する評価は高かったです。

教育委員

「Picture Dictionary」は、かなり頻繁に使うことが予想されるのですか。授業で使うこともあるでしょうし、個別学習で使うこともあると思いますが、その使い方を教えてください。

英語調査委員

各ページには基本文や例文が載っていますが、最終的には自分のことを表現させる活動へとつなげていくので、教科書のそのページにあるだけでは単語が全部網羅できていない場合もあると思います。5・6年生の教科書の下の方の帯のところに、ワードリンクという形で、このページへ飛ぶと自分の使いたい単語が出ているというヒントもあるので、そういうところでも活用ができるのではないかと考えています。

教育委員

国語でも辞書を使っていると思いますが、それを習慣付けるという意味ではとてもいいことではないかと思っています。

英語は最初の教科書ということもあるせいか、サイズがまちまちです。そのあたりはどのように評価していますか。

英語調査委員

多くの教科書はA B判で110～120ページですが、特徴的なのは学校図書です。大判であり、しかも150ページで持つと重いです。5・6年生の繰り返しが重視されていて、導入単元の時間もしっかり取ってある教科書です。「Picture Dictionary」を別に取ったからか、東京書籍の「NEW HORIZON」は90ページ台で100ページを切っているのでもったときにすごく軽さを感じますが、情報は大変たくさん入っていると思います。

教育委員

東京書籍のページの下の方に、Small Talk と sounds and letters があります。Small Talk は、日本人が一番苦手とするところですが、今回これを載せたことに対する評価や、sounds and letters についての評価はありましたか。

英語調査委員

チャンツや歌もそうですが、短時間でできる活動が帯のように設けられていることについては、金沢市が大事にしているショートタイムという帯の時間に、音の充実もあれば、担任だけでもできるのではないかと期待の話がありました。

教育委員

私は光村図書の5年生の導入部分というか、始まりのところはすごく分かりやすいように感じましたが、その辺は他の教科書と比較して何かご意見はありましたか。

英語調査委員

光村図書は、子どもたちが日々生活している教室を舞台にしています。ですから、導入のところから子どもたちが主人公で、登場人物設定がしっかりしており、学校生活を基盤にしながら進めていく中で、とても丁寧なスタートになっていると思います。逆に、全く登場人物設定がない発行者もあります。教育出版は、調査委員会ではそこまで話は出なかったのですが、同じ登場人物が出てくるわけではなく、イラストや写真も、それなりの決まりはあるようですが、所々変わる形で進んでいます。

教育長

登場人物の話が出てきましたが、インターナショナルの時代が来ているので、各者を比較してみて、国や人種がまんべんなく登場しているような発行者があれば、ご紹介ください。

英語調査委員

先日の選定委員会でもご質問を受けて、その後、調査しました。ほとんどが外国からの登場人物を含めていて、男の子と女の子はほぼ同数でした。先生は、男の先生とALTの先生という設定が多かったと思います。外国については、国籍までは書いていない発行者もありましたが、シンガポール、ブラジル、ハワイ、インド、オーストラリア、中国、アメリカ、カナダなどいろいろです。

教育委員

光村図書の教科書について伺います。2点あります。一つは、教科書を開くと最初に「英語で夢を広げよう」というキャッチコピーがあります。山中先生や桐生さんなど、旬の人の写真もあり、「後からこの人たちが出てくるよ」ということで、「どこで出てくるのだろう」と思って読み進む力になりますが、誰を扱うということでは何か話題は出ましたか。

二つ目は、国籍の話が出ましたが、町の様子を紹介する際、他にも、盲導犬を連れていたり人や車いすに乗っている人など、さまざまなハンディを持った方がいます。この点で、この教科書には全部入っているとか、たくさん入っているなどの指摘はありましたか。

英語調査委員

1点目についても、2点目についても、そこまでの調査は進められていません。2点目については、どの教科書もオリンピック・パラリンピックを扱っているのもので、その選手が紹介されているページやパラリンピックのことが出ているページは各者あったと思います。

教育長

それでは、採択に入りたいと思います。選定委員長、選定副委員長、調査委員長の皆さまには一度ご退室をお願いします。

(選定委員、調査委員 退室)

[音楽：審議]

教育長

音楽の採択について審議を始めます。音楽は2者なので、どちらがいかしかならないと思いますが、ご意見を頂戴したいと思います。たくさん資料もあるので、学校の先生方のいろいろな考えを大事にさせていただいてもいいと思います。ちなみに、確か音楽は市民の方からの声はなかったと思います。

教育委員

単元ごとにQRコードがあることや、教科書の大きさ、さらにリコーダーの導入のところで適切なレベルの曲を設定しているところから、私は教育芸術社がいいと思います。教育出版の見開きと透明シートが気になっていたのですが、それがさほど効果的ではないことも分かったので。

教育委員

教育芸術社は、歌を歌うということ、声の出し方や発音、発声法などがすごく多いように思いました。それと、楽譜が見やすいと思ったのですが、たくさん見ていると、教育出版も見やすいように思えてきました。教育芸術社は最後に必ず国歌が出てくるので、そういうことが子どもたちの教育にどうつながっていくのかという思いもありますが、歌を歌うということが多く取り上げられているのが印象的でした。日本の伝統の音については、両者バランスよく取り上げられていると思いました。

教育長

国歌については、少し扱いが違う感じは受けませんが、両方とも2学年ごとのくくりで取り上げられていますし、説明等もされています。

教育委員

どちらも一生懸命作ってあり、子どもたちに音の楽しさ、それこそ音楽を教えてくれる良い教科書で、甲乙つけ難いと思っています。ただ、不思議

議ですが、教育芸術社は音符が見やすいと感じました。

教育委員

音楽を理解するのに必要な要素が丁寧に書かれており、積み重ねるように学習ができるよう図られているのが教育芸術社だと思います。1年生の教科書も、鍵盤ハーモニカやリズムを取るような楽器の説明を見比べると、タンバリンの使い方も横にしたり縦にしたり、どうやって打つのが丁寧に書いてあるのが教育芸術社だと思います。教育出版は、打ち方の方向は書いてあるのですが、どのように打つかが書かれていませんでした。それから、歌と楽器の使い方を対応させた表現が分かりやすく示されている教育芸術社の方が使いやすいのではないかと思います。教育芸術社の方が、指導する上で教科書がしっかり使えるようなつくりになっていると判断しました。

教育長

私は美しい日本語という視点でどちらが良いかを見ていたのですが、文部省唱歌や自分たちが小さいころに大事にしていた曲は、やはり教育出版の方が多く感じを受けました。ただ、教育芸術社にも全くそれがないというわけではありません。教育出版の方が、写真などのインパクトが強過ぎてたくさんあるように感じたのかもしれませんが、一応、曲の数を調べたら多かったです。ただ、学校現場で音楽に携わっている先生が、最近は学級担任の先生であることが増えてきていると感じます。学級担任の先生が音楽の指導をするとなると、どちらの教科書がいいのかと考えたときに、最終的に、やはり教育芸術社の方が、先生方が指導しやすく良いのではないかと考えました。

それでは、そろそろ評価に入ります。2者しかないので、挙手をお願いできればと思います。

—挙手—

教育長

それでは、全会一致で、音楽は教育芸術社を採択することにさせていただきます。

[図画工作：審議]

教育長

これも2者しかありませんので、こちらを推薦したいというご意見も頂戴したいと思います。

教育委員

甲乙つけ難いのですが、日本文教出版は、ほぼ全ての教科書の裏表紙にインパクトの強い絵が掲載してあり、興味を引くような出だしになっていることがとても印象的です。それから、それぞれの教科書で取り組まれることに、子どもたちがどういう発言をしているのかが、とても捉えやすく色付けされていて、さまざまな声がまとめられているので、開隆堂と比べると、かなり使いやすいつくりになっています。それから、各活動の中で、きちんと片付けましょうというメッセージなど、活動に必要な事前の備えや途中で注意しなければいけないこと、最後の後始末などがしっかりと表示されているので、そういう意味では日本文教出版の方が良いのではないかと思います。

教育委員

ご指摘のところは、吹き出しのセリフになっていて本当に見やすいです。吹き出しがあると見にくくなりがちなのに、ページ立てがとてもすっきりとしてきれいで、色も穏やかな色を使っていて、「発想や構想を広げたり深めたりすることができるよう工夫されている」との感想もあったので、日本文教出版が良いと思います。

教育委員

私は、後ろの方の「やすりで磨こう」や「塗装しよう」というページの

ところが、両方とも丁寧に書いてあるのですが、日本文教出版の方が見やすいと感じて、日本文教出版がいいと思いました。

教育委員

先ほども質問した点ですが、学習のめあてが、日本文教出版の方がはっきりとしていて分かりやすく、開隆堂の方は、どこにあるか探さなければいけない感じだったので、やはり日本文教出版の方がいいと思いました。

教育長

私も学習のめあてをずっと気にしていました。例えば、開隆堂の1・2年の上の32ページをご覧ください。左上の方に「ちぎってはって」という題材がありますが、その下に「大きくちぎる」「小さくちぎる」「いろいろな形が見えてくるね」とあって、これは果たして課題なのかと考えてしまいます。その下に学習のめあてがありますが、「工夫しよう」「考えてみよう」「楽しもう」というめあてになっています。一方で、日本文教出版の1・2年生の上の28ページをご覧くださいと、左のページの上の方に「絵の具を混ぜて水をふる」とあり、その次に「どんな色ができるかな」「作った色水ではどんなことができるかな」と、きちんと課題設定がされていると思います。また、横の黒板のところに、同じように学習のめあてが三つ明示されていますが、こちらは「工夫する」「考える」「活動する」と、いわゆる視点を決めて、こんなことを達成してほしいということが明示されています。こういった課題設定の部分を踏まえても、日本文教出版の方がしっかりとした教科書のつくりになっているのではないかと感じました。

教育委員

私も同じ意見です。開隆堂の学習のめあては書いてあるのですが見にくいです。日本文教出版は見やすいです。それと、最後に一番大事な片付けのことについて触れてあるのはすごく良いことだと思います。

教育長

では、そろそろ評価に入りたいと思います。2者しかありませんので、挙手をお願いしたいと思います。

—挙手—

教育長

全会一致で、日本文教出版を採択することに決定させていただきます。ありがとうございます。

[英語：審議]

教育長

英語は全部で7者あります。それぞれご意見を頂戴しながら決めてまいりたいと思います。

教育委員

やはり「Picture Dictionary」がすごく効力を発揮するのではないかと思います、私は東京書籍がいいと判断しました。

教育委員

これまでの英語教育では本当にきれいなネイティブの発音ばかりを聞いていました。もちろん、それはすごく大事なことです。ただ、最近の私の仕事では、ネイティブの英語を聞くことは少なく、訛りのある英語ばかりで本当に苦労しています。これだけグローバルになると、仕事の上でも、国際交流の上でも、友達ができて、きっと訛りがたくさんある英語を耳にしたいと思います。児童にも、そういうものを聞いてほしいと思っていましたら、東京書籍にはそれがしっかり入っています。QRコードの内容もとても充実していて、歌いながら覚えていく、リズムを覚えていくシステムになっています。英語は日本語とは全く違ってメロディックな言語ですから、音楽とともに学んでいくことは本当に大事なことです。

Small Talkにしても、ちょっとしたおしゃべりですが、こんなことは今までどこにも書いてありませんでした。これまでの日本語英語教育のよう

な英語教育が長かった時代から、ここで画期的なことが起こって、音声や音楽、動画が入り、いろいろな国の子どもたちが出てきます。子どもたちが出てくるところが良いです。世界で自分と同じ年齢の人は一体何をしているのだろうと、いつも頭に置いておいてほしいとこれまでずっと述べてきました。それが実現しています。たくさんのQRコードが入っていて、とても無理だと思った「Picture Dictionary」にも全ページ音声が入っています。これは、いつでもどこでもずっと使えるということで、私も持って歩きたいぐらいです。自分のことを話したり、相手を理解したりするときには、同じグループの単語を知っていることがとても大切です。また、私たちがホチキスと思っているものはステイプラーです。そのような間違いそうなものがしっかりと入っていて、単数、複数もきっちりしています。この準備は大変だったと思います。私は東京書籍を推薦したいと思います。

教育委員

「Picture Dictionary」とQRコードの充実という点で、東京書籍が良いと思いました。大きさが気になりましたが、大きさを生かした写真の良さや、絵もすごく見やすく、活用しやすいと思いました。大きいだけあって、それだけ充実しているので、やはり東京書籍が良いと思います。

教育委員

東京書籍は、会話に必要なことが5年生からずっと繰り返しで入っていて、こういうことが大事なのだなということ積み重ねるように学習できるのは、教科書づくりにおいてとても大事な点ではないかと思います。他の発行者ではなかなか見られないことです。一昔前の時代と違い、こうやって学習すればしっかり身に付くのではないかと思います。「Picture Dictionary」も中学校につながるような内容で、とても工夫されていて、東京書籍が良いのではないかと思います。

教育委員

私も皆さんと同様、東京書籍が群を抜いていると思いました。例えば国際理解やダイバーシティ、異文化というのは、それぞれの教科書でも取り上げられていて、最後の付録やツールもそれぞれの工夫はあるものの、そんなに大きな差がないのかなという中で、やはり「Picture Dictionary」は非常に実用的で、自分も欲しいぐらいです。こういうものを小学校の頃から身に付けてもらおうと、将来、役に立つのではないかと思います。

教育委員

それぞれに、国の文化を取り上げたり、良いところもたくさんありますが、総合点で考えると、やはり東京書籍が良いのではないかと思います。

教育長

私は7者の教科書を見させていただきながら、実は初めは、東京書籍もいいなと思いながら、三省堂もいいなと悩んでいたのです。東京書籍は年間を通して学ぶというところが、三つのCheck Your Stepsと八つのUnitで構成されて非常に分かりやすいです。三省堂もHop (Get Ready)・Step (Lesson)・Jump (Presentation)という三つの構成になっていて、さらにJumpが四つの流れで分かりやすい構成になっていて、これは甲乙つけ難いと思いながら読ませていただきました。

今でも悩んでいますが、これまでの皆さんのご意見のとおり、トータルでいうと、やはり東京書籍なのだろうと感じています。三省堂は、年間を通しての授業の流れが少し分かりづらいと感じました。

教育長

それでは、英語について、評価を進めさせていただきたいと思います。7者ありますが順を追って挙手を頂きたいと思います。

—挙手—

教育長

それでは、英語は全会一致で、東京書籍を採択することに決定したいと

思います。

委員の皆さま、今日は長時間にわたり、ご審議いただきありがとうございました。大変お疲れのことと思いますが、明日も3時からこの会場にて、社会、地図、算数、理科、生活の5種目についてご審議をお願いしたいと思いますので、よろしく申し上げます。

それでは、以上で本日の審議を終了します。ありがとうございました。

以 上

令和元年 第3回教育委員会定例会議 会議録

1 日 時 令和元年8月6日(火)
開会 15時00分
閉会 19時00分

2 場 所 金沢市役所 4階 兼六会議室

3 出席委員(7名)

教 育 長	野 口 弘
教 育 委 員	田 邊 俊 治
〃	早 川 芳 子
〃	岡 能 久
〃	大 島 淳 光
〃	丸 山 章 子
〃	木 村 陽 子

事務局	教育次長(兼)学校教育部長	高 村 政 博
	担当部長(兼)学校指導課長	寺 井 義 春
	学校指導課担当課長(兼)課長補佐	青 山 雅 幸
	学校指導課主席指導主事	貞 廣 賢 了
	学校指導課主任指導主事	古 川 雄 次

金沢市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会		
委員長		松 原 道 男
副委員長		加 藤 隆 弘

教科用図書調査委

4 案 件

非 議案第13号	令和2年度使用小学校教科用図書の採択について	(学校指導課)
非 議案第14号	令和2年度使用中学校教科用図書(「特別の教科 道徳」を除く)の採択について	(学校指導課)

5 議事の経過等 以下のとおり

議案13号について非公開で審議に入り、小学校教科用図書のうち、社会、地図、算数、理科、生活について採択を行った。その後、議案14号について非公開で審議に入り、原案どおり可決した。

[案件の説明及び諸報告について]

案件について、別添資料等に基づき事務局より説明・報告し、原案どおり承認された。

[主な質疑・応答の内容について]

○ 議案第13号 令和2年度使用小学校教科用図書の採択について(学校指導課)

○ 種目「社会」

[社会：説明の概要（選定委員長）]

3者の発行者について調査研究し、特に優れている点について答申書に示した。

東京書籍は、石川県や金沢市に関連した教材が全学年で掲載されるとともに、導入で問題意識を高めてから学習が進められるよう資料が工夫されている。

教育図書は、知識の習得に必要な言葉や関連する大切な用語については、「キーワード」や「解説」欄に示され、知識の習得が図られるよう工夫されている。

日本文教出版は、写真やグラフ、イラスト等が鮮明な色で大きく掲載されており、大変分かりやすく、資料の特徴を捉えたり複数の資料を比較したりできるよう工夫されている。

参考までに、選定委員会の調査委員長に対する質疑応答の内容および、その後の議論について報告する。社会のまとめで書くことについて、各者の違いについて質問があった。それについては、東京書籍は自分の言葉で表現して伝えるというまとめの活動になっている。教育出版はつなげてまとめる活動になっている。日本文教出版は吹き出しを使ってイラストで表しており、それぞれの特色があるが、金沢の子どもたちには、一人一人が思考して、さまざまな方法で表現できる東京書籍がより合っているということだった。

資料を読み解く力や資料の読ませ方をどう評価したかという質問があった。それについては、大きくて見やすい点では日本文教出版が一番である。東京書籍も工夫はされている。読み取りの技能についてはどの教科書も同じということだった。

東京書籍だけ上下の分冊で軽いという利点はあるが、マイナス点はあるのかという質問があった。それについては、マイナス点はなく、政治・国際編で歴史的なことが必要になれば、そのときだけ歴史編の教科書を持ってくればよいということだった。

教科書では社会科の最新情報は載らないが、どのように対応しているかという質問があった。それについては、教科書はできた時点での記述がされているが、最新のことを学習するときは教師が資料を作るということだった。

領海などの記述についての質問があった。それについては、特に領土問題は各者とも同じような表現がされているということだった。

日本とつながりの深い国々で取り上げている国の違いや、検討において、何かあったかという質問があった。それについては、調査委員会の中では特に話はなかったが、よく扱われているのはアメリカ、中国、韓国、サウジアラビア、ブラジルで、詳しく載っている国としてどの教科書も4カ国程度あります。それ以外に取り上げている国もあるが、おおむねどの者も同じような国を取り上げているということだった。

その後の議論では、教科書の記載内容について、採択に当たり、どのレベルまで議論すべきかという質問的な意見があった。それについては、文科省の検定は通っているので、あとは社会科を教えるときの先生方の使いやすさや、子どもたちの問題解決の学習でどうあるかを考えればよいのではないかという意見があった。

感想としては、金沢型学習スタイルということで、つかむ・調べる・まとめるがきちんと明示されているのが東京書籍で、社会的なものの見方が育まれるのではないか。東京書籍だけが全学年で石川県や金沢市に関連した教材が掲載されており、興味関心を引く一つの好機になる。金沢の子どもたちの分かった・できたをまとめるというところで、東京書籍と教育出版はまとめのところでキーワードが挙げられており、教師も、今日学んだキーワードがしっかりと子どもたちが捉えられるような板書を工夫するので良い。日本文教出版は吹き出しが幾つもあるが、子どもがまとめる時の手掛かりとしては少しまとめにくいのではないかという感想があった。

[社会：質疑応答]

教育委員

別冊か合冊かという違いがありますが、この使いやすさについて何か議論はありましたか。

社会調査委員

東京書籍の5年生と6年生が2冊に分かれています。6年生を例にして話をしたいと思います。結論から言うと、分かれているから使いにくいということはありません。6年生の最後の方の単元で、日本とつながりの深い国々について調べるところがあります。そこでは文化だけではなく、日本と歴史的にどんなつながりがあったかということも要素として入ってきますが、そのときだけ歴史編を持ってきて学習すればよく、分かれています特に不便に感じることはないと思います。

教育委員

日本の領土や国境を巡る問題について、例えば日本文教出版は225ページにまとめて資料として出していますが、扱い方について、3者の共通点や違いについて聞かせてください。

社会調査委員

日本の領土については、5年生の国土の学習、6年生の歴史学習を終えた最後のところの「現代の課題」で3者とも出てきます。表現についても、北方領土は返還を交渉中である。竹島は不法に占領されており抗議を続けている。尖閣諸島は中国が主張してきているが、元々、領土問題はないというふうに、どの教科書も同じような表現になっています。出ている学年も一緒です。

教育委員

私は仕事柄、気になったことがあります。日本文教出版の6年生の81ページに、貴族の食卓と農民の食事について載っていますが、この貴族の食事の器はおかしいと思います。中身はそうかもしれませんが、この時代にこんな器が存在していたとは思えません。他の発行者については、すぐに調べたところ、素焼きや土器を使っている感じでした。こういう曖昧なものは本当は良くないのではないかと思います。

社会調査委員

この点については、われわれは気が付かず、話し合いはありませんでしたが、言われてみると、そのとおりだと思います。中身については合っていますが、器についてはふさわしくないと思います。

教育委員

3者とも同じ大きさですが、社会の教科書としてはこの大きさが適切なのでしょうか。また、各者、見開きが結構入っていて、特に教育出版はすごく多いですが、これの活用についてはどうなのでしょう。それから、5・6年生になると覚えなくてはいけない言葉を、各者、太字で書いていますが、これの見やすさについて何か評価はあったのでしょうか。

社会調査委員

大きさについては、3者とも資料を大きく入れようとしたりして大きくなったのではないかと思います。

見開きについては、どの会社も見開きのページが多いと思いました。特に調査委員で「ここがすごい」と言っていたのは、日本文教出版の自動車産業のところ。5年生の144～147ページに大きく出ています。日本文教出版は見開きを使って表示してあるところも優れている点であり、自動車の作り方について、写真を使いながら説明しているだけでなく、組み立て工場についてはイラストを使い、子どもたちがどのようにつくっているのかをよりイメージしやすいようにしています。その他2者についても、大きく見開きの写真で、子どもたちの関心・意欲を高めるよう

なページを作っているというところは共通していると思います。

覚える言葉の太字については、各者ともキーワードを示してあります。例えば、東京書籍の6年・歴史の48ページをご覧ください。征夷大將軍がキーワードとして太字で示され、その横に説明があります。教育出版の6年110ページをご覧ください。鎌倉幕府が太字になっていたり、横に守護・地頭の説明があるなど、より詳しく示されているのが教育出版だという感じがします。

選定副委員長

印刷等の技術が上がり、随分と見やすくなってきたと思いますが、例えば教育出版のフォントは、おそらくユニバーサルデザインのフォントになっているのだと思います。字を追いくい子にとって見やすいフォントを採用しています。ただ、東京書籍と日本文教出版についても、取り上げたコーナーのところなどで、それぞれのフォントを有効に使い分けているので、大きな差にはならないのではないかと感じています。

資料の活用についても、授業をするときには前に大きなパネルや印刷物を貼り出し、手元の資料と見比べながら活用していくという使い方がありますので、いずれの発行者もそのような学習の使い方には十分対応できる大きさに印刷されていると考えています。

教育委員

書き込むところを教科書の中に設けている発行者と、全くない発行者のがあると思いますが、書き込みはよく使われるのでしょうか。社会の授業の際に、自分のノートもありますし、いろいろな資料や教材を使うこともあると思いますが、自分で教科書に書き込んで活用する方が、教科書が使いやすいのでしょうか。

社会調査委員

その点について特に話し合ったわけではありませんが、私のこれまでの経験でいうと、書き込む場合もありますし、それをコピーして子どもたちに渡してノートに貼る場合もあります。どちらもあると思います。

教育委員

説明の中で、イラストや写真が良いと評価された発行者もありました。全体的に社会はいろいろな教材や歴史的資料などを、絵や写真を活用して学ぶ傾向が強いと思いますが、そうやって取り上げた写真が極めて良いとか、写真やイラストを通じてさらに学びを掘り下げることが容易であるなど、こういうものを活用することの良さ、あるいはその出来栄の良さが教科書の中にあるのかどうか、お聞かせいただければと思います。

社会調査委員

写真やイラストは、子どもたちの興味関心を高めるという意味で大きな影響を与える場合があります。東京書籍の5年生の上の76ページ、77ページは米作りの導入のところですが、写真を見ただけで、まず子どもたちは、これだけ広く田んぼが広がっていることに驚きを持つと思います。そういう部分で東京書籍は工夫されていると思います。

グラフ等については日本文教出版が一番大きく示しています。読み取るときに数字の見やすさなどは日本文教出版が優れていると思い、調査委員会でも話をしていました。

教育委員

社会は、捉え方によって意見の幅がとても大きい教科だと思います。寄

せられた意見を拝見すると、領土の説明の問題や、原発の取り扱い、憲法
の説明の仕方など、事柄によって受け止め方は千差万別です。得てして見
解が広がりがちな事柄について、教科書としての取り扱い方にあまり齟齬
はない気がしますが、その点は、どの教科書も特段の問題はないと評価し
てよいのでしょうか。

社会調査委員

確かに、原発問題や憲法改正についての表記は、各者で多少違います。
例えば東京書籍は福島原発について、本当に復興していない、今もまだ戻
れない場所があるという表現をしています。原発については東京書籍が具
体的に書かれていると思います。教育出版も、処理が終わっていない、避
難がまだ続いているという表現があります。日本文教出版は、必ず東日本
大震災を扱わなくてもいい、他の震災でもいいということで、原発のことは
特に書かれていません。

憲法改正についても、表現の仕方は違いますが、憲法改正は国会の働き
としてある、天皇の国事行為としてあるという内容は3者とも共通してい
ます。ただ、教育出版は、憲法改正についてはさまざまな意見があるとい
うことを付け加えている点で、少し違いがあります。

教育委員

今回初めて教科書にQRコードが付いて、資料や動画が見られるようにな
りましたが、3者で違いはあるのでしょうか。東京書籍はDマークの説明の
横にリストが付いていて、これがQRコードの中に入っているのでしょうか。
3者でここが違うとか、ほとんど同じとか、先生方や子どもたちがどのよ
うに利用してくれることを希望してQRコードが作られているの
のでしょうか。

社会調査委員

マークは各者とも付いていて、6年生についてアドレスを打ち込んで見
比べてみました。東京書籍は子どもたちが自分でクイズを解いたり年表を
見たりできるようになっており、リストとは少し違う感じがありましたが、
これから変わるのかもしれませんが、まだ今の教科書のままなのか分かりま
せんが、内容はリストとは違うように思いました。

教育出版は、いろいろなホームページに飛ぶようになっていました。た
だ、子どもたちが見るには少し分かりにくいホームページもあったと思
います。調べ学習に使えるようなホームページを紹介してあるとは思いま
した。

日本文教出版は動画が紹介されていました。6年の歴史の遺跡のところ
で、竪穴式住居の暮らしの様子などが動画で見られるようになっていて、
3者でそれぞれ特徴があると思いました。

○種目「地図」

[地図：説明の概要（選定委員長）]

2者の発行者について調査研究し、特に優れている点について答申書に示した。

東京書籍は、日本の歴史や文化では、国内の世界遺産を写真で紹介し、加えて各地の歴史的名
所や祭りなども紹介するなど内容の充実が図られている。地名の文字や地図記号を大きくしたり、
色調のコントラストをやや強くしメリハリを付けたりして、見やすくなるよう工夫されている。

帝国書院は、地図帳の使い方について、3年生からの活用に対応した解説と4年生以上の解説
を分け、地図を活用する能力が段階的に身につくよう工夫されている。従来の詳細な地図に加え、

3・4年生のために「広く見わたす地図」が新設され、学年に応じて系統的・発展的に使えるよう工夫されている。

参考までに、選定委員会の調査委員長に対する質疑応答の内容および、その後の議論について報告する。帝国書院の地図帳にあるQRコードの内容について質問があった。それについては、例えばトライという問題があり、地図の使い方が分かるようになっていたり、地図記号をクイズ形式で学ぶ形になっていたり、地球儀の使い方の動画が出るということだった。

3年生から地図を使うことになるということで、3年生の地図の使い方について、両者の違いに関する質問があった。それについては、帝国書院が地図帳の使い方について分かりやすく、多くのページを割いているということだった。

石川県の場所について、東京書籍は北陸3県でページを取ってあるので石川県と近隣の県とのつながりが見えやすい。一方、帝国書院は福井が切れてしまっているので、授業で使う上で問題にならないかという質問があった。それについては、帝国書院の3・4年生に対応した「広く見わたす地図」では石川県について読み取りやすくなっており、情報量が落ちるという欠点はあるが、新幹線、二つの空港、北陸自動車道などが読み取りやすく、5・6年生用を併せて見てカバーできるということだった。

QRコードは授業ではどの程度役に立ちそうか、そして、どう評価したかという質問があった。それについては、授業で活用できるという点で評価し、地図そのものの電子データなどは活用の頻度は低いが、地球儀の使い方、索引の使い方など、地図を活用する方法を指導するときには十分に使えるものが載っているということだった。

スマホでは見ることができないコンテンツがあるが、家庭では使わないのかという質問があった。それについては、家庭学習で地図帳を使うことはあまりなく、学校に置いてもよい部類のものということだった。

帝国書院はあえて情報量を落とした中学年に対応したページがあり、東京書籍は非常に精緻な描画がされているが、これらについての話は出たかという質問があった。それについては、東京書籍は8世紀ごろの日本とアジア、13世紀後半のユーラシアなど、6年生の歴史学習で非常に有効な資料が載っており、帝国書院にはなく、この点について東京書籍は非常に良いという話し合いをしたということだった。ただ、6年生になると資料集も持っているので、その点はカバーできるということだった。

その後の議論では、3年生からの活用で2者を比較したときに、帝国書院の地図の使い方のところが分かりやすく、子どもたちが地図を索引で使うところなども十分に紙面を取ってある。東京書籍は情報量が多いが、子どもにとっては、帝国書院のシンプルな「広く見わたす地図」を活用することで、地図に興味を持ち、地図帳を見ているいろいろなことを見つける授業が展開できそうだという感想があった。

[地図：質疑応答]

教育委員

地図の方は自分の目に慣れているのですが、統計資料については、両方ともかなり細かく書いてあります。日本の統計のところ、最初は東京書籍の方が大きく書いてあるので見やすいと思いましたが、帝国書院はイチゴやリンゴ、ミカンなどが細かく書いてあります。授業でこれを活用したことはありますか。

地図調査委員

東京書籍は83ページと84ページ、帝国書院は103ページと104ページをご覧ください。小学校では4年生が石川県について学習しますが、そのときにこのページを使うことがあります。東京書籍も帝国書院も、左側の統計資料は基礎的な資料になっています。大きな違いは右側に出てきます。東京書籍は、主な伝統工芸品や郷土料理などを多く取り上げていま

す。加賀友禪、金沢箔、金沢仏壇まで取り上げています。数としては11件ほどです。それに対して帝国書院は、ふるさと自慢として兼六園や輪島朝市などを取り上げていますが、数的には少ないように思います。帝国書院の良いところは、漆器等の生産については石川県が上位に位置していることが、関連付けて分かるようになっていきます。

教育委員

授業で活用する地図において、近隣諸国の地名の表記は、だいぶ前からその土地の読み方になってきました。そうでないと、漢字読みをしている限り、世界に200の国があったとしても、日本だけの読み方ですから通用しません。子どもたちの授業ではどのように活用しているのでしょうか。

地図調査委員

日本と関係の深い国々ということで、アメリカや中国などを取り上げて学習します。大抵、子どもたちが調べたい国を分担して調べることが多いです。その中で、衣食住や姉妹都市、金沢から子どもたちが行っている都市などは、ピックアップしながら学習していく形になります。

教育委員

そのときの地名は、この地図ではきちんと国際基準の読み方になっています。例えば黒竜江省はヘイロンジャン、吉林省はジーリンになっています。授業では、そのように教えているのか、それとも今までどおり吉林省（きつりんしょう）と言っているのかということです。これから国際社会に出ていく子どもたちには、どこでも通じる読み方をきちんと教えてあげてほしいといつも希望しています。

地図調査委員

小学校のときには、都市名まで特定し、そこについて学習するということはあまりないので、大きく中国やアメリカというパターンが多いです。当然、金沢の姉妹都市などについては、きちんと指導しています。

教育委員

地図記号について、帝国書院には地図記号のページがあって説明されていますが、東京書籍にはありません。これは元々、教科書の方であるのでしょうか。私の記憶では地図記号の勉強はすごくたくさんした覚えがあるので、こちらはあってこちらはないというのがどうなのかと思ったのですが、そのことについてお願いします。

地図調査委員

東京書籍は、13ページ、14ページの左上に地図記号等が出てきています。

帝国書院は12ページ、3年生に対応した説明をしているページで、全部ではないですが地図記号が出てきています。また、15ページからは4年生以上対応の地図帳の使い方になりますが、15ページにも地図記号等が出てきています。ですから、両者とも取り扱っているということでご理解ください。

教育委員

2者の地図帳を見比べると、導入のところで随分違いが大きいように思います。地図をしっかりと使えるようになるためのトレーニングを念入りに示しているのが帝国書院ではないかと思いますが、そのあたりの地図の使い方へのいざないに関する評価を聞かせてください。

地図調査委員

来年度から新しい指導要領になりますが、そこでの大きな違いは、今までは4年生から地図帳を使っていたのが、3年生から地図帳を使うようになることです。そういう意味では、ご指摘いただいたように帝国書院の方が、3年生に合うようにページを割いて説明しているところが大きなポイントではないかと思います。

教育委員

このようにしてある方が、役に立つといいですか、使い勝手が良いという評価になりますか。

地図調査委員

やはり3年生は、地図帳の使い方が全く分からないところから始まります。それから、例えば帝国書院には「広く見わたす地図」が付いていますが、この23ページ、24ページは、先ほどの3年生の地図記号等の説明と対応しています。先ほど説明したように情報量を落として分かりやすく表示してあるので、3年生も抵抗なく見ることができます。東京書籍が悪いというわけではありませんが、東京書籍にはこのようなページがなく、一般的な100万分の1などの地図になると、どうしても3年生にとっては情報量が多くなります。ですから、地図嫌いの子どもをつくらないということからも、帝国書院が非常に分かりやすく説明していて、使い勝手もいいのではないかという話し合いをしました。

○種目「算数」

[算数：説明の概要（選定委員長）]

6者の発行者について調査研究し、特に優れている点について答申書に示した。

東京書籍は、巻末では、数直線図の書き方について、量感を意識した適切なメモリの取り方を示すなど、数量関係を適切に把握できるよう工夫されている。

大日本図書は、プログラミング的思考を扱う特設ページが全学年に設けられ、プログラミング的思考を伸ばすことができるよう工夫されている。

学校図書は、プログラミング教育を扱う特設ページが全学年に設けられ、QRコードによって実際に操作しながら思考できるよう工夫されている。

教育出版は、「算数ワールド」では、知的好奇心に応えるコラムが多く、単元末でも4コマ漫画で振り返るなど、児童が興味・関心を持って取り組めるよう工夫されている。

啓林館は、「もっと練習」では、同型の問題と挑戦問題が提示され、基礎的な力や発展的に考える力など身に付ける力が明確になるよう工夫されている。

日本文教出版は、下巻巻頭の「つなげよう！学びとノート」のコーナーでは、問題解決型の授業展開と対応したノート作りができるよう工夫されている。

参考までに、選定委員会の調査委員長に対する質疑応答の内容および、その後の議論について報告する。数直線図について東京書籍が優れている理由についての質問があった。それについては、各者、数直線図については書き方を工夫して掲載しているが、東京書籍はメモリの付け方が量感をしっかり捉えられるように、その数の大きさに合わせている点で優れているということだった。

適用問題や発展問題についての質問があった。それについては、問題の量的なものでは教育出版や啓林館が多めであること。ただ、啓林館は同じページに練習問題と発展問題があり、他者においては3段階に分けたところもあり、質的にはそれほど各者で変わらないということだった。

算数での子どもたちの学力差に対応しているものについての質問があった。それについては、各者、例えば巻末に学年のところで振り返るというものがあり、この問題が分からなかったら教科書のここを見るという手立てがあり、どの者が優れているかについては議論していないという

ことだった。

プログラミングに関する記述内容の質問と確認があった。どの者も挙げているが、学習指導要領上では、算数で明記されていたのは5年生の多角形であり、金沢市が行っていることに一番近いのは東京書籍ということだった。

その後の議論では、プログラミングについての各者の評価について、いくつか質問や議論があった。

[算数：質疑応答]

教育委員

これから、算数のみならず、プログラミング的思考を深めるということが課題になっていると思いますが、算数の教科書を例にして、プログラミングについて特に注目すべきような取り上げ方や、それと対比して少し違った取り上げ方など、何か例を示していただければと思います。

算数調査委員

プログラミングについては、学習指導要領上では5年生に示されています。6者のうち、日本文教出版と教育出版は指導要領に示された5年生のみ、東京書籍と啓林館は5年生と6年生、大日本図書と学校図書は全学年でプログラミングの特設ページがあります。ただ、その違いとしては、大日本図書は、例えば1年生の168ページをご覧ください。併せて学校図書の1年生・下巻の70ページもご覧ください。どちらも1年生からプログラミングを扱っていますが、大日本図書はPCを使うわけではなく、三つのカードで命令に従って動くことを体験し、プログラミング的思考を体験するという扱いで、学校図書の方は実際にパソコンを使って動かしてみようという違いがあります。ただ、1年生でパソコンルームに行ってもパソコンを使うとなると、まず立ち上げるだけでかなりの時間を要するので、1年生は思考を体験するのがいいかと思いますが、大きな特色としてはそういうところが見られます。

選定副委員長

プログラミング的思考については、今、挙げていただいたようにアンブレラグドで、コンセントが差さってなくても、右に2歩進むなどことを組み立ててしっかりと読み取ったり、話したりできるようにしていく教材を入れてあるので、そういうところを見ていただければいいのではないかと思います。

教育委員

算数については1年生の導入がすごく大切だと思いますが、各者どのような特徴がありますか。特に東京書籍の1年生の1番は、別冊のような、他の学年と違う大きさで、あえて楽しくしているのかなと思います。また、授業でおはじきなどが入った算数セットを使うと思いますが、それとの兼ね合いで、1年生の導入のことについて教えてください。

算数調査委員

1年生の初めの出会いですが、幼保小の連携ということで各学校にはスタートカリキュラムがあります。それに対応しているかどうかという観点で6者について調べてみました。どの会社もスタートカリキュラムに対応していますが、ページ数については、東京書籍が一番扱いが多いと思います。先ほどご指摘のあった別冊は調査のときも非常に好評でした。具体的に言うと、別冊の13ページが教科書に直接書き込める大きさになっています。1年生の最初のノート指導では本当に時間がかかりますが、この教

科書を使って実際にそこに書き込む経験をした後で、別冊が終わってからノート指導に入れるということでは、非常に優れた特色があると思います。

教材については、教科書によってブロックなどいろいろなものがあり、学校はその教科書に合った教材を買うので、教材ありきではなく教科書に合わせた教材というふうにお考えください。

教育委員

算数のQRコードは、開くと何が出てくるのでしょうか。そして、子どもたちとどのように活用しようと思っていますか。

算数調査委員

例えば東京書籍は、開くと、動かす、練習する、見るなどテーマがあり、自分で選べるようになっていきます。大日本図書は、教科書の中に社会人へのインタビューがあり、そのインタビュー動画が入っています。教育出版は、授業で使うワークシートなどを出すこともできるなど、各者特徴があります。

ただ、問題を解くようなところもありますが、それだけならドリルで十分なので、学校としては例えばグラフの作成等についてグラフを描くところまではパソコンを使うなどの工夫が見られると思います。

教育委員

展示場等での意見、あるいは学校の先生方の意見を見ると、中学校の数学が前倒しで入ってきたことを心配される声が多々寄せられています。言ってみれば数学嫌いをより一層つくってしまわないかという心配だと思いますが、そういうことを起こさないような工夫は、教科書を点検して感じられましたか。

算数調査委員

例えば東京書籍は、6年生の最後の方で、中学校への体験入学コースのようなページがあったり、各者、中学校についての扱いです。ほとんどが6年生ですが、例えば大日本図書は、5年生の267ページで、中学校の数学ではこんなことを学ぶよという形で、今、学んだものと中学校との関連を示しています。6年生の卒業間近になってやるのではなく、早い段階から中学校のことも紹介するというのは一つの工夫ではないかと思います。学校図書は、6年生の最後に別冊の形で中学校への架け橋として、23ページにわたって中学校の学習内容を紹介しています。これも小学校の学習と関連させて説明しており、これをする事で、不安になるということはないのではないかと思います。中学校になると正負の数が入ってきますが、カードゲームにより、こんな学習なのだということが分かりやすくなっていますので、各者とも工夫はしているということです。

教育長

今回、指導要領が変わりましたが、その中身については各者できちんと対応されているという方向で捉えてよろしいですか。

算数調査委員

大きな変更点としては、先ほどから出ているプログラミングや、データの活用という領域が出てきています。データの活用という観点で調べてみると、統計的な問題解決の方法とされているPDACサイクル、要は問題を見つけて、計画を立てて、データを集めて、分析して、結論を出すというサイクルを全ての発行者が用いています。ただ、そのスタート時期にやや違いがあり、東京書籍は5年生から、教育出版は4年生から、全学年に

プログラミングを入れた大日本図書と学校図書は1年生からそれを意識しています。ただ、そのサイクルを実践するのではなく、調べ方を紹介するなど、データの活用についてはどの発行者も力を入れて指導要領に対応していると考えています。

教育委員

統計の扱いは各学年であるのかもしれませんが、6年生で見ると、データの単元と円の面積を出す単元が、順番や位置が微妙に違うのはなぜかと思ったのですが、単元の構成は大きな意味があるのでしょうか。それとも、それほど影響はないのでしょうか。

算数調査委員

単元の順序については、指導要領上でも、これが先というものはありませんので、発行者の判断だと思います。ただ、どの者も系統的に扱っているので、そこについて問題はないかと思います。

選定副委員長

各者、割合のところで円グラフ、棒グラフ、帯グラフなどが効果的に紹介されています。他の教科での活用を意識し、具体的にどのように資料作りに算数の考え方を活用すればいいかというところで、それぞれの教科書に記述があります。割合については学力調査でも苦手であるということから、そのような有効な活用を例示するなど、各者工夫して作られているところが入っていると思いますし、6年生でも円グラフなどで入っていたと思います。

[社会：審議]

教育長

社会の審議を始めたいと思います。3者について自由に意見を述べていただきながら審議を進めていきたいと思います。

教育委員

東京書籍では、6年生の教科書をあえて歴史編と政治・国際編に分けています。これは、子どもたちが考えるときに、今、自分は歴史的に考えているとか、政治はどうなのだろうと、とても分かりやすいと思います。イラストと写真がとても上手に配置されていて、その中に同時に覚えなくてはいけないキーワードが太字できちんと入っています。

また、つかむ・調べる・まとめるというのが全編に流れていて、必ずこれを通り越さないといろいろな勉強ができないのですが、とても良い流れになっていると思います。本当にそれぞれ良い点はあるのですが、東京書籍が優れているのではないかと思います。

教育長

分冊になっているのは、中学校も歴史と公民が分かれているので、中学校への導入という視点もあるのではないかと思います。

教育委員

私は、東京書籍が段階を経て学んでいくということがはっきりしていて、とても良いと思って拝見しました。それと、私も歴史と政治が別になっているのは、類比させて調べようと思ったときに分かりやすいのではないかと思います。また、これからの子どもたちのために、インターネットの良いことはもちろん、正しい使い方などについて触れているのが良いと思いました。

教育出版は、字の大きさがほぼ一緒で見にくいというか、雑然としているように思いました。特に3年、4年が同じような字の大きさを少し見にくい感じがしました。

日本文教出版は、疑問を持って調べていき、みんなで話し合い、まとめて伝えるという段階がはっきりしていると思いました。

教育委員

私もこの中では東京書籍がベターなのかなと感じました。5年生から別冊にすることにより、中学校へのつながりも含めて、考え方や情報の取り方など、時系列に並びながら関連したところを並列で学んでいくような形になるので、進めやすいというか分かりやすいのではないかと感じました。

教育委員

社会の授業でこれに地図帳も持っていかなければいけないときに、一緒になっている方は結構な重さを感じます。分冊にしたことで特にマイナス面はないという話で、むしろ6年生に関してはきちんと分野を分けているということで良いのではないかと思います。

あと、ドラえもんが良いと思いました。タイムマシーンに乗っていたり、どこでもドアを開いたりというのが時間的、空間的な見方・考え方を働かせるポイントになっていて、そこも子どもになじみやすいのではないかと思います。社会があまり好きではない子もいるかと思いますが、なじみを持って教科書を見られるかなと思いました。

教育委員

今、ご指摘がありましたように、分冊になっていることの良さが東京書籍には多分にあるのかなと思います。他者と比べて使いやすいといいますが、持ち運びしやすさを評価できるかなと思います。内容は甲乙つけ難いですが、例えば憲法について小学生からしっかり学習してくれるのは大事なことと思っていて、6年生の政治・国際編の20ページを見ると、しっかりまとめる教科書の中に盛り込まれています。また、18歳、主権者ということもきちんと学習できるようになっています。自分で調べたり学習の成果としてまとめて書き込むような工夫がされている作り方は、他の教科書にはなかなかありません。調べましようとは書いてあるのですが、自分で調べたことをしっかりと記述するというのは、ノートを使えば可能ではあったとしても、こんなふうにメッセージが伝わるような作りになっているのは、他の発行者にはないのではないかと思います。そういう点などから、東京書籍が良いのではないかと思います。

また、教育出版は、索引を見ると、重要な言葉が太字になっていたりという工夫がされているので、こういうところは他の発行者もぜひ心掛けてほしい、学び合ってほしいと思います。

教育長

先ほど調査委員長、選定委員長から、東京書籍の方が金沢や石川県の記事が多いという話がありました。特に東京書籍の3年生では金沢の消防署をかなり大きく扱っていて、実際に見学に行ったときにその人が目の前にいるということが、子どもたちの興味・関心を高めるという点では効果的だと思いました。

教育委員

今、言われたように、特に東京書籍の大名行列のところは、歴史博物館に飾ってある写真を登用しておられるので、児童のためにも石川県のため

にも本当に良いのではないかと、この3冊を拝見させていただいたときに感じました。

教育長

どの教科書も、金沢で大事にしている問題解決的な学習の流れはきちんと押さえている感じがします。例えば東京書籍の6年生・歴史の教科書の11ページをご覧いただくと、大変コンパクトなのですが、社会科の学び方ということで、学習問題について予想しようというところから、学習計画を立てて、調べ方があり、まとめ方があり、歴史をこういう流れで勉強しましょうということが表示されていると思います。もっとダイナミックな学び方といえば、教育出版の4ページ、5ページも、学ぶときには非常に分かりやすい表現のされ方で、このあたりは東京書籍よりもこちらの方が分かりやすいと思いました。日本文教出版でいうと、4ページの教科書の使い方のところでは載っていますが、ちょっと混み合っている感じがして、これは子どもには分かりづらいと思います。

一つだけ東京書籍の教科書で気になったのは、歴史学習の南京事件のところでは、子どものノートという設定で、日本人が悪いことをしたということが書かれていることが非常に気になります。これを教科書本文として書くなら構わないのですが、あえて子どものノートの設定として表しているというところに課題があるのではないかと思います。中立的に扱っているのは教育出版ではないかと思えます。ただ、社会は3年生から6年生までのトータルで見ないとはいけませんので、トータルバランスからいくと東京書籍なのかなと思えました。歴史・公民等の扱いについては、来年の中学校の採択でまた議論すればいいのかなと思えます。

それでは、社会については全会一致で、東京書籍を採択してもよろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

教育長

それでは、社会科は東京書籍を採択させていただきたいと思えます。

[地図：審議]

教育長

地図は東京書籍と帝国書院の2者しかありませんので、ご意見を頂戴しながら決定していきたいと思えます。

教育委員

先ほどの話の中で、3年生から地図帳を使うことになるということがあったと思えますが、そういう意味で、最初は地図帳の使い方など大まかなところから、詳細まで書いてある地図帳に段階的に移行している点でも、帝国書院が使いやすくいいのではないかと思えます。

教育委員

先ほど現場の先生が、帝国書院の地図の方が子どもたちが地図嫌いにならないとおっしゃったのが、すごくインパクトのある言葉でした。とにかく何でも好きになってほしいので、その他もいろいろな理由もありますが、帝国書院の地図が子どもたちにとっていいかなと思えます。

東京書籍の地図もすごく良くできていて、色がとてもきれいで捨てるのが難しいのですが、地図嫌いにならない地図と聞いたらうれしくなって、こちらを推したいと思えます。

教育委員 2者で同じようなページを横に並べて見比べた場合に、東京書籍の方が細か過ぎる印象がありました。帝国書院は色使いも目に優しく、見やすくなっているのではないかと感じました。

教育委員 地図の扱い方として、地図マスターを目指そうとか、地図に親しもうというメッセージが、帝国書院の教科書づくりでは心掛けられています。例えば115ページは少し遊び心が過ぎている気もしなくはないですが、3年生から使うにはこういう形で遊び心から導入することを心掛けられているのかなと思います。

また、索引を見ると、違いがはっきりしていると思いました。県庁や県名を東京書籍は赤と黒で使い分けたり、名所なども表示されていますが、帝国書院の方がもう少し色使いが豊かに工夫されていて、外国の首都や地名、名所・旧跡で色が使い分けられていて、索引が使いやすいので、帝国書院の地図が良いと思いました。

教育委員 私もほぼ皆さんと同じ考えです。大きな違いはさほどないのかなと思うぐらい優劣つけ難いのですが、やはり「地図マスターへの道」というものがあると、子どもたちが興味を持つのではないかと思いますし、考える力も養えると思います。

教育長 子どもたちは索引を見ながら地名を探すことが授業の中で多いので、やはり子どもがさっと探しやすいような索引が大事なのだらうと思います。そういった点では帝国書院は工夫されていると思いますし、3年生からの積み上げもかなり意識した地図帳になっていますし、最後の「保護者の皆さんへ」の熱いメッセージが、こちらの方が強いかなと思いますし、私も異存がないところです。

それでは、そろそろご意見を頂戴したいと思いますが、帝国書院を採択することによってよろしいでしょうか。

委員一同 異議なし。

教育長 全会一致で、帝国書院に決定させていただきたいと思います。ありがとうございました。

[算数：審議]

教育長 算数の審議に入らせていただきます。6者あり、かなりボリュームがありますが、またご意見を頂戴しながら決めさせていただきたいと思います。算数の重さ比較は、一番重いのが学校図書の4.7kgで、次に重いのが東京書籍と日本文教出版の3kg、次に重いのが教育出版と啓林館の2.86kg、一番軽いのが大日本図書の2.52kgです。ページ数は大体その重さに比例していますが、一番多いのが学校図書の1,725ページで、意外だったのは、軽いのにページ数が多かった啓林館の1,674ページです。ちなみに全部に付録が付いています。

別冊は、東京書籍の1年、学校図書の6年にあります。これは、東京書籍は入り口で算数を好きになってもらおうということ、学校図書は中学校

への接続を大事にしているということの表れではないかと思えます。

教育委員

どちらの教科書も、算数から数学へということをや6年生できちんと取り上げて、学習の内容がだんだん変わっていくことをきちんと明示していると思えますが、やはり楽しい算数という、うたい文句ではありませんが、1年生のときから算数になじんでいくような指導は東京書籍が一番分かりやすいのではないかと思ひ、東京書籍が良いと思ひます。

教育委員

導入のことを考えると、東京書籍の1の1がすごく使いやすく、楽しく算数に入っていけるのではないかと思ひます。先ほど、算数は学力差がかなりあるという話がありましたが、多分、学校によっては5・6年生になってクラス別に、学力別に授業をしているところが多いと思ひます。各者、補充問題が最後に付いていて、ここはそんなに差がなかったのですが、この部分などをクラスによっては活用するのかなと思ひます。東京書籍は、最後の方のプラスというところで、プログラミングについて問題から入って補充問題があるというのは、すごくすっきりして分かりやすいと感じました。

教育委員

「あたらしいさんすう」1の1を見ていたら算数というよりも楽しい世界にこれから入っていけるのかなという気持ちになりました。1年生もこの本に出合って算数を好きになってくれたらいいなと思ひます。

東京書籍のつながりがとても上手にできていましたので、東京書籍が良いと思ひました。学校図書と大日本図書のプログラミングもきちんとされているのですが、見やすい、使いやすい、つながりがある、かわいいというキーワードで、総合点で東京書籍を選びたいと思ひます。

教育委員

算数についてたくさんの発行者があり、いろいろな差別化、工夫をしていこうということが各者見られるのですが、総合的に、やはり東京書籍の導入部分に非常に引かれる部分があるのと、「保護者の皆さまへ」という裏面のメッセージで、非常に明確にこういう子どもたちをつくっていきたいということもしっかり書かれているので、非常に良いのではないかと感じました。

教育委員

6者の算数で、それぞれ工夫されているという感触はありますが、教科書を使いながら、何がまとめなのかとか、ノートの書き方などにも丁寧に触れられていたり、まとめのところの色付けがしっかり明示されていたりというつくりは、東京書籍以外は、同じことを扱っていてもちょっとメリハリがありません。教科書を使いながら、他の単元との関連や、その単元でどれが重要事項なのかということがしっかりと把握しやすい教科書のつくりになっている点で、東京書籍が良いのではないかと思ひます。

プログラミングは、目新しい課題として算数の中に取り入れられているので、それは注目する点ですが、大日本図書は後ろの裏表紙を見ると、監修のところで、プログラミング教育の専門家の知見を生かして教科書を作っていることが分かりますし、他の発行者と違い、各学年でプログラミングの学習の仕方が示されています。まだまだそんなにそこはクローズアップされる場所ではないのかもしれませんが、大日本図書で工夫されたと

いう点は、注視できることかなと思います。

教育長

私も、金沢型の学習スタイルという視点で見えていくと、やはり東京書籍が合っているのではないかと思います。啓林館も大変よく似たような学びの順序を示していますが、どちらかというところ東京書籍がすっきりしていると思います。もう一つ、東京書籍は前の学年と次の学年のつながりをしっかりと意識して示していることが、他者とは違うことではないかと思います。

日本文教出版の示し方も、東京書籍や啓林館と大変似ていますが、残念ながら教科書の使い方として、論点が次のページまでまたがっているのが非常に分かりづらいです。やはり1ページというか右側までまとめるような工夫があってもいいのではないかと思います。東京書籍が比較的、金沢の学習に沿っているのではないかと思いますし、先生方も学習指導がしやすいのではないかと思います。6年生から中学校へのつながりも意識されているのだろうと感じました。

教育出版は、科学技術とのつながりや建物とのつながりなど、いろいろな分野と算数がコラボしているところが面白いと思います。ただ、算数はあくまでも数を基にした学びなので、そこを大切にすべきだと思います。

それでは、評価に入ります。

—挙手—

教育長

東京書籍に全員が挙手しました。大日本図書、教育出版、啓林館も手が挙がりましたが、1人ずつということですので、東京書籍で決めさせていただいてよろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

教育長

それでは、算数は東京書籍ということで採択させていただきたいと思います。

○種目「理科」

[理科：説明の概要（選定委員長）]

5者の発行者について調査研究し、特に優れている点について答申書に示した。

東京書籍は、「理科のミカタ」を生かして児童が熟考し、対話を通して思考力・判断力・表現力等を育てる場面を提示するよう工夫されている。

大日本図書は、「理科のたまてばこ」で児童が興味関心を持てるよう様々な話題について掲載し、学習内容と日常生活が結び付き、興味関心が高まるよう工夫されている。

学校図書は、「資料」のページの説明に伴う写真が豊富に掲載されており、身近な事象について知りたいことが分かりやすくなるよう工夫されている。

教育出版は、重要語句に黄色のマーカーを付け、分かりやすく示すとともに、巻末でも一覧として記載し、知識・技能が確実に習得できるよう工夫されている。

啓林館は、「ふり返ろう まとめノート」を設け、学習内容をまとめる習慣付けや、新しく学習した言葉をチェックすることができるよう工夫されている。

参考までに、選定委員会の調査委員長に対する質疑応答の内容および、その後の議論について報告する。理科では問題解決が重要と思われるが、課題設定のところの各者の比較はどうかとい

う質問があった。それについては、東京書籍は一度自らが課題を作っていく形が出ており、他はやや教師が課題を設定していくところがあるのではないかということだった。金沢型学習スタイルについては、つかむ・考える・まとめるという三つの段階があるが、それに一番近いのは東京書籍ということだった。

調査項目 8 について、全てプログラミングが挙げられており、その評価についての質問があった。それについては、目的意識で評価しており、東京書籍はプログラミングを使って電球を効率的に使うなど目的意識があり、教育出版もミニ信号と横断歩道の点滅で試してみるだけでなくミニ信号を作るという目的意識があり、センサーブロック等を用いる金沢市のベーシックカリキュラムに一番近いのは東京書籍ということだった。

観察実験について、書いてまとめていくことや、レポート作りについての質問があった。それについては、各者、巻末や巻頭等に学びなどが載っていて、大日本図書以外は 4 者ともノートの取り方が後ろまたは前に別項目として記載されており、きれいなノートを單元ごとに表しているのは啓林館だけであるということだった。

その後の議論では、東京書籍はシンプルな課題設定だが、啓林館は日常生活と結び付いており、そういう意味では問題解決として日常生活やこれまでの学習などがしっかり考えられるようなところもあると思われる。ただ、シンプルに課題設定をして入る方が指導しやすい先生も多いだろうから一長一短があるだろうという感想があった。

[理科：質疑応答]

教育委員

東京書籍の教科書について二つ質問があります。子どもたちに一番付けてもらいたい考える力や判断する力、それを表現する力が「理科のミカタ」を生かして育てられるとおっしゃったのと、プログラミングの活動を設けて、いろいろな条件が変わっていくことによって論理的な思考力が身に付くということですが、何か具体的に、このページのここを見れば分かりやすいという例はありますか。

理科調査委員

東京書籍の 6 年生の 1 2 ページ、1 3 ページをご覧ください。最初の單元ですが、つかむという段階において、東京書籍は写真も使っていますが、漫画でストーリー仕立てにしてあります。ストーリーを読みながら問題をつかめる形になっているところが他者とは違います。東京書籍も写真だけのページもあります。同時に、最初のところの右ページに「学ぶ前の私」というところがあります。これと同じ質問が、最後に「学んだ後の私」のところでも出てきます。これは啓林館も同じようなページがありますが、学ぶことにより自己の変容が見えてくるというつくりになっています。その辺りは東京書籍と啓林館は優れているのではないかと思います。当然、そこには表現や思考も出てきますし、非常に考えやすくなっていると思います。

プログラミングについては、各者それぞれ記述があります。プログラミングを試してみようという感じのものが多いです。東京書籍の場合、6 年生の 1 6 0 ページをご覧ください。実際にセンサーブロックを使い、点いたり消えたりすると電気がどれくらい効率的になるのかという問題意識を持ってプログラミングを使用しているところが違います。単にプログラミングを作って試してみるだけではないところが大きな違いだと思います。そのセンサーブロックは、金沢市のベーシックカリキュラムで使っているものと似たような素材なので使いやすいのではないかと思います。さらに、1 6 0 ページの左下に、プログラミング言語が例として付いています。右

のものはスクラッチだと思いますが、教育出版も同じようなスクラッチを使っており、金沢市も例としてスクラッチを出していて、使いやすいのではないかと思います。

学校図書は自社で作ったもの、啓林館はシールを貼っていくという形で、言語を使わない形になっています。いずれの教科書もプログラミングは扱っていますが、それぞれ扱い方が少し違っており、金沢市と近いのは東京書籍ではないかと思っています。

教育委員

ゴムの力で物を動かす單元では、東京書籍よりも大日本図書の方が丁寧ではないかとも思いました。考えてみよう、分かったこと、それからもう一つ深めていく、そしてまたそれをまとめてみようというような一つの段取りがあるのですが、実際に先生としては、どこまで子どもたちに考えさせ、体験させた後、どのようにまとめていくかということについて、ご意見を頂ければと思います。

理科調査委員

各者、予想、計画、実験、そして考察ということで内容は似ています。大日本図書は結論という言葉を使っていると思います。結論という言い方と、まとめるという言い方で、言い方は違いますが、扱いとしては同じです。金沢市がまとめるという言葉を使っていたので、それが東京書籍の方が近いと思いますが、各者とも同じようにきちんとした結論は出していますので、先生方の使いやすさという点では大差はないかと思っています。また、単元を一つの流れとして見たときに、つかむ段階、調べる段階、まとめる段階とありますが、大日本図書の場合はまとめる段階は考察も結論も次の問題を見つけることも一つのまとまりとして扱っています。そういう扱いの違いはあると思いますが、いざ先生が使う場合には、一つのまとまりとして使っていけるとと思います。

教育委員

巻末に付録が付いているものがありますよね。シールやカードが切り取れたり、各者、いろいろな工夫がなされていることがよく分かりますが、これについて評価があれば聞かせてください。

理科調査委員

巻末や中とじなどいろいろな工夫がありますが、学校図書は付いていません。東京書籍は人体模型のようなものが付いていたり、大日本図書は星座シートが付いていたり、教育出版はミニ図鑑が幾つも付いていて何冊か集められるようになっていきますし、啓林館はシール系のものということで、一長一短はあります。子どもたちにとっては、あったら楽しいだろうということは感じています。大きなものでは、教育出版の6年の中とじに実物大人体というものがあり、開くと実物大の人体図があります。これを実際に体に当ててみると「こんな感じだな」ということが分かるものです。他のところでも、東京書籍の5年生は、おなかの中の胎児を実物大で表しています。実物大で表すことができるのは、最近の教科書が大きくなってきたおかげだと思うので、その点では付録も魅力的だと思っています。

教育委員

理科については教科書の大きさがばらばらなことが気になりました。例えば実験をするときに教科書を開いたままということになると、学校図書や大日本図書が開いたまま置きやすく、見ながら実験ができますし、左

右続いた写真なども多くて使いやすいのではないかと思います。東京書籍はちょっと縦長で、これが実際に現場で使いやすいのか、使いにくいのか、そのあたりの評価を教えてください。

理科調査委員

実験中は、机の上に余分なものを置くと危険もあるので、全て閉じて片付けてしまいます。ですから、実験中に大きさはあまり影響しないと考えています。

教育委員

二つ質問があります。一つ目は、理科のQRコードは一体どんなものが開かれるのでしょうか。もう一つは、理科には必ず実験が伴いますが、そのときの危険防止の注意事項のお知らせの仕方は、各者で少しずつ違うものなのでしょうか。

理科調査委員

先に安全のことについて言いますと、各者きちんと赤字で書かれています。それは安全指導、危険マーク、注意マークなど発行者によって違いますが、全て赤字でマークが入っています。ただ、ページごとに随時幾つも書くところと、一つにまとめて表記する違いはあります。実験道具の使い方についても、巻末にさらにまとめて書いてあるなど、それぞれの工夫が見られます。教育出版は裏表紙に全部まとめて書いてあり、開かなくても教科書の裏さえ見ればよいという形になっています。安全指導については、それぞれの工夫で各者漏れなく付いています。

QRコードは、まだ完全にできていない会社もありますが、今、見た段階では、啓林館のQRコードが中にいろいろなものが入っています。問題や資料、動画など他の場所にリンクして飛んでいったりと、各者、多少違いはありますが、それぞれ工夫を凝らしています。実際にこれを授業中にどう使えるかという、それだけのことを見られるか、それを見るだけの機器が各学校にそろっているかが未知数で、今はどちらかという、家に帰って保護者と一緒に見るといった使い方が一番大きいのではないかと考えています。

教育委員

理科にとどまらず、学習の積み重ねが必要だと思います。理科の場合は、以前、他の学年で学んだことをこまめに書いてある教科書もあれば、全くなかったものもあったと思いますが、既習事項は理科を学習する上でかなり重要な意味を持つのかどうか教えてください。

理科調査委員

単元のつながりはとても大事なことで、単元のスタートに振り返りが必ずあるといいと思います。東京書籍と啓林館は両方とも前を振り返るところが付いていますし、啓林館も「思い出してみよう」というのが全ての単元に付いています。このように既習を生かすことはとても大事だと思います。こういうことがきちんと書いてあると、やはり授業では使いやすいと思います。

教育委員

それが啓林館と東京書籍ですね。

理科調査委員

啓林館と東京書籍が一番見えやすくなっています。

教育長	理科の授業ですから実験や観察は付き物ですが、現場に入っていると、最近では世代交代で若い先生方が増え、理科を初めて指導するとか、あまり経験がない先生が多くいらっしゃるように感じます。そういう先生方が授業をするときに、実験の準備はととても大変だと思いますし、実験をするにしても安全配慮がととても大事だと思います。実験や観察ということを意識したときに、きちんと丁寧に扱っていると思う会社があれば、ご紹介いただければと思います。私が並べて見た感じでは、啓林館に水ロケットのページがあったのですが、あれは水ロケットにフィンが付いておらず、そのまま飛ばしたら暴発して危ないという感じがしました。
理科調査委員	どの会社も、巻末に実験方法等を詳しく扱っています。ただ、本文と巻末の両方に書いてあるところと、本文は軽くして巻末にきちんと書いているところもあります。見やすい、見にくいというのは主観が入ってしましますが、私は縦に真っすぐ見た方が見やすいと思いました。東京書籍と啓林館が私は見やすかったです。教育出版は、本文中は詳しいのですが巻末はわずかで、学校図書は写真が多かったというイメージがあります。
教育長	学校にあるいろいろな実験の道具や薬品を考えると、どの者も大体それを意識して、実験しやすい方法を示してあったでしょうか。
理科調査委員	それぞれの実験全てを調査のときに見たわけではないので、言い切ることができませんが、それぞれ工夫された実験があったと思いますので、その差はそんなに感じませんでした。
教育長	植物の水の蒸散の学習で食紅を使っている教科書がありましたが、食紅は最近では使わなくなっているのではなはいかと思い、他にもそういったものがないかと思ってお聞きしました。ありがとうございました。

○種目「生活」

[生活：説明の概要（選定委員長）]

7者の発行者について調査研究し、特に優れている点について答申書に示した。

東京書籍は、児童が見通しを持って学習を進められるような構成となっており、吹き出しで思考を深めるヒントがつかめるよう工夫されている。

大日本図書は、「がくしゅうどうぐばこ」では昔遊びや昔の人の知恵が豊富に掲載され、金沢ふるさと学習との関連が多く見られるなど充実が図られている。

学校図書は、4人の登場人物が相談したり助け合ったりする等、多様な対話場面を示し、児童同士が関わりながら学ぶことができるよう工夫されている。

教育出版は、「なにをかんだかな」のページにおいて、書き込み欄や「まんぞくハシゴ」欄で振り返る活動を繰り返すことで、変容が可視化できるよう工夫されている。

光村図書は、「ホップ・ステップ・ジャンプ」の3段階が示され、見通しを持ち、疑問を自分たちで考え、振り返ることで、学びを深められるよう工夫されている。

啓林館は、活動の連続性や広がり意識できるように、右下の「めくり言葉」で次の活動への思いや願いの例を示し、見通しが持てるよう工夫されている。

日本文教出版は、資質能力の三つの柱を「気付く・深める・つなげる」の視点から紙面下側にめあてを示したり、吹き出しに表したりして学びを深めていけるよう工夫されている。

参考までに、選定委員会の調査委員長に対する質疑応答の内容および、その後の議論について

報告する。教科書のサイズが3種類ぐらいあるが、その使いやすさについての質問があった。それについては、A4が結構大きいように感じたが、軽い紙を使って重量がないよう工夫されており、そういう意味では大きい方が見やすく、幼児期に読んでいた絵本のサイズでもあり、良いという話し合いになったということだった。

調査項目4の金沢ふるさと学習との関連として評価がいくつかあるが、金沢ふるさと学習はどのような学習かという質問があった。それについては、金沢のお祭りの写真が掲載されていたり、2次元バーコードで百万石まつりの様子が映像で見られる資料などが載っていたことを、ふるさと学習に関連することとして評価したということだった。その他、京都の昔遊びの視点でも豊富に資料が掲載されているものは評価を高くしたということだった。その後、金沢ふるさと学習とはどういうものかということについての説明があった。

[生活：質疑応答]

教育委員

今まではどちらかというのと重たいという話でしたが、今の説明を聞くと、大きい方が低学年の生活にとっては見やすく良いという話でした。選定の基準として、その辺が分かったような、分からないようなところがあります。

選定委員長

例えば、東京書籍は大きいですが軽い紙を使っているようで、大きい割にはそんなに重量を感じず、むしろ大きい方が図や絵が大きいので子どもたちは親しみやすいという調査委員長の報告でした。より詳しくは調査委員長から説明していただこうと思います。

生活調査委員

子どもたちのランドセルにはA4サイズがすっぽり入るので、そんなに不都合ではないだろうということと、やはり紙面が大きい分、写真などもたくさん大きく載せてもらえているという点で、子どもたちの興味関心を引くのではないかと話し合いになりました。

教育委員

生活という科目の位置付けが、「生き生きと活動や体験に取り組む児童の姿が見られます。より良い生活に向けて思いや願いを実現しようとする豊かな学びが行われています」とありますが、何となく分かったような、分からないような感じですか。結局、家庭科ではなく、道徳でもなく、生活という科目はどのような位置付けなのでしょう。それから、教科書が上下ありますが、これは例えば1年生用、2年生用なのか、前期用、後期用なのか、どのようになっているのでしょうか。

生活調査委員

生活科が始まる前は、1年生から理科と社会科で分かれていたと思います。その教科をまとめてと言ったらあれですが、生活科という教科で、3年生以上の社会科と理科の素地をつくるというふうに考えていただいてもいいのではないかと思います。町探検なども生活科の中に入ってきて、3年生になると、自分たちの町から金沢市の勉強に広がっていきます。

理科も、いろいろな植物を育てることを生活科で行った上で、3年生の理科で植物の育ちに水や栄養が必要だということに勉強がどんどん深くなっていきます。1・2年生の生活科で、そのような社会的・理学的な素地をつくる、力を付けるということです。

生活科で大切にしていることは、子どもたちの気付きの部分です。子どもたちがいろいろなものに目を向けて、自分なりにミニトマトを愛情を持

って育てたりするような、子どもたちの思いや願いを実現するための教科として位置付けられています。

上下に分かれていることについては、基本的には上巻は1年生、下巻は2年生で使用していることが多いです。ただ、その辺は単元を入れ替えたりつなげたりして使うこともできますので、2年生で必ず下巻を使わなければいけないということではありません。

教育委員

3年生以降に向けて、社会や理科につながる学ぶ姿勢をつくり上げていくことが生活科の趣旨だと思いますが、それを一番集約しているのが、下巻の最後にある、学習図鑑や手紙の書き方などを含めてまとめられているところだと思います。発行者によって結構幅が広いのですが、これは付録なのか、生活科の学習の終着点なのか、もし学習の終着点であれば、発行者によってかなり違うので、そのあたりの評価をどう評価したらいいのか教えていただければと思います。

生活調査委員

それは調査項目6の「教材や内容は、学年相互間の関連が図られ、系統的・発展的に構成・配列されていること」のところで見させていただいた点です。社会科や理科につながる学年間の系統性という部分で見ると、東京書籍と啓林館は下巻の最後が充実しているといいますか、理科と社会科につながるような構成になっていると思います。

教育委員

例えばどういう点ですか。具体例を挙げていただければと思うのですが。

生活調査委員

他教科の関連ということでいえば、東京書籍・下巻の「明日へジャンプ」では、96ページ、97ページに、生活科で勉強したものが音楽や理科につながるということで、3年生の理科の風・ゴムという単元につながるような風やゴムを使ったおもちゃが提示してあったりします。生活科で学んだことが理科につながっていくことが少し予測されるような写真を載せてあったりして、子どもたちが次の学年への意欲や興味関心を持てるような編集になっています。

啓林館の「未来に向かって」という最後のページも、他教科との関連ということで、これから3年生になったらどんな学習になっていくのかが分かるように、2年生までの生活科で学んだことを踏まえた写真を置きながら、次の学年につながるような配置がされています。

教育長

この後、理科と生活科の採択をしますが、今ほどからずっと生活科と理科、それから生活科と社会はつながりがあるという話が出ています。例えばA者の生活科を選んだとすれば、理科もA者を選んだ方が授業がスムーズにいくのか、それとも、そういうことは全く付度せず別発行者でも良いと考えればいいのでしょうか。

生活調査委員

確かに同じ発行者であれば、系統立てて作ってあることが予測されるので、そのようにつながっていく方が良いのではないかと感じます。これは調査委員会が出た話ではなく、私見です。

教育委員

多分、どの教科書も、生活は何を学ぶのかということの記述がどこかに

あり、保護者の皆さま、先生方へというメッセージもあるのですが、啓林館の上は、これから何が起きるのかなど、子どもたちがわくわくしつつ、どきどきもしているところに、「こんなことを学習しますよ」という優しいイントロがあります。そして、終わりの方で、「生活科ではこんなことをします。皆さまも一緒に教科書をご活用いただき、子どもたちが成長していく様子を感じ、見守ってください」と、とても丁寧に書いてあります。2次元コードの注意事項も、「お約束を決めたらいいね」と、とても丁寧なのです。このように啓林館は丁寧だという議論はありましたか。

生活調査委員

どの発行者も、目次には大体その教科書のつくりが説明してあり、子どもたちや保護者と一緒に学ぶような形式を取っている発行者が多いです。また、多くの発行者に付いているスタートブックですが、啓林館は「あいいうえお」でスタートブックが始まっています。東京書籍もスタートブックで保護者と共に子どもが興味関心を持って学べるようなつくりになっているのではないかと思います。

[理科：審議]

教育長

理科の審議を始めます。たくさんの発行者がありますが、どれからでも結構ですのでご意見を頂戴したいと思います。

教育委員

先ほどおっしゃった危険な実験というのは、啓林館でしたか。

教育長

一部ですよ。全部ではありません。

教育委員

もちろんです。しかし、一部でも危険なものは危険です。

教育長

理科は、問題解決的な学習を必ず意識しないといけない教科書ですので、そういった視点で教科書を読んでみると、学習課題からスタートして、最後にまとめるという流れを全ての教科書で展開されていると思います。ただ、その精度というか、研ぎ澄ましの問題はあるかもしれません。

教育委員

理科については、子どもたちの興味を引いたり、想像力を豊かにさせたりということであると、写真の使い方やレイアウトが非常に重要だと思います。そういう視点でいくと、東京書籍か啓林館が良いのではないかと感じました。

教育委員

やはり、考える力、判断する力、そして、いろいろなものを吸収して表現する力は、子どもたちにぜひ付けてあげたいものです。これがきちんと考慮されている東京書籍は良いと思いました。そして、「保護者の皆さまへ」で、どんな子どもたちにしたいかというメッセージがありますし、最後に「ぜひ子どもと一緒に教科書を開きながら、身近な自然に目を向け、疑問を見つけて考え、理科を学ぶ楽しさや大切さを感じていただければ幸いです」とあり、いいなと思いました。

啓林館もいろいろな良い点があるのですが、小さなことでもやはり危険は避けたいということで、東京書籍を推薦したいと思います。

教育長 たまたま自分の専門のところを読んでいたときに、それが目に入ってしまったのでそういう説明をしましたが、それぞれの発行者では安全面に気を配っていることと思います。

教育委員 問題解決型というところで見ると、東京書籍は「問題をつかもう」から始まり、「調べる」「まとめる」という流れが緑色で統一されていてすごく分かりやすいです。他の教科書は、一応こういう形式にはなっていますが、「問題」「結果考察」という流れが卒業論文のような形式で、そのあたりが小学生にはちょっとわかりにくい形なのではないかという意味で、東京書籍の展開が小学生にとってすごくわかりやすいと思いました。

教科書の大きさについては、実験のときは開くことはないということでしたし、縦長だと置きにくいのではないかと思いましたが、写真など見るとすごく見やすく、大きくてはっきりしていたので、東京書籍が良いのではないかと思います。

教育委員 見つけて、確かめて、調べて、まとめてという学習過程はみんなほぼ一緒だと思いますが、それを「深める」など、大日本図書は子どもたちの興味を引くような構成になっていると感じました。学校図書は、「まとめる」のところまで理解できてから次へ進むという形であることが特徴だと思います。教育出版は、「何年生で学んだこと」というページがあり、まとめて、それを振り返るという形だと感じました。啓林館も、私はすごくいいと思いました。実験したことが、洗濯物や日光の具合など、日常生活の中でどのように関わっているかを考えさせるので、身近に感じられると思いました。

ただ、やはり最終的には東京書籍が良いと思います。大事な言葉が太字で書いてあったり、下に線が引いてあったりして見やすいです。それから、「インターネットを使って調べてみよう」というところも特徴ではないかと思ひ、全体的には東京書籍が良いのではないかと思います。

教育委員 保護者へのメッセージを見比べてみると、東京書籍は「疑問を見つける力」「創意工夫して解決する力」「事実を根拠に科学的に判断する力」というふうに、どういう力を付けることを目指しているのかがしっかり明記されています。啓林館も、こういう問題解決の力の育成を目指すとうたっていますし、先生や保護者へのメッセージに教科書づくりのポリシーが色濃く反映されているのではないかと思います。

また、既習単元との関わりはしっかり書いてある方が指導しやすいというご発言もあったことや、子どもたちの学習のスタート時にしっかり振り返って学習を進めていく段取りについても、丁寧に作られた東京書籍と啓林館に絞られるのではないかと思います。

教育長 私も、教科書を全部読んで、それぞれ一長一短があると感じました。東京書籍は大判できれいですが、前回の教科書に比べて、ところどころにある「理科の広場」というコラムが、あまり効果的に配置されていないと思いました。同じ場所に二つも「理科の広場」が載っているのはいかがかと思いました。それから、選定委員会に総括していただいた表にあるように、

調査項目4の伝統文化のところが浅くなっています。他の発行者を見ると、今、日本の第一線で活躍している方々のメッセージや、日本はこんなに素晴らしいということが出てきますが、東京書籍は1学年の一つぐらいです。6年生に多くありますが、今、本当にみんながメジャーだと感じる人の取り上げ方が非常に少ないです。その代わり、今まさに最先端で、これからの人が随分たくさん扱われていて、子どもがなじめるかどうかというのが非常に気になりました。

教育出版は、答申書を見ていると非常に評価が低い感じの文言が並んでいるのかなと思いますが、教育出版は内容的にグレードが高過ぎると思いました。非常に内容が濃いので、金沢の子どもがこれを理解できるかなとは思いますが、教育出版も非常にいいものが、きらりと光るものがあるのです。

啓林館も長い間金沢で使っていましたが、これは問題解決が非常にしっかりとした教科書だと思います。特に5年生の教科書では四季の様子が写真で全部出ていて、こういうところで金沢の子どもたちは喜ぶだろうと思いました。一方、東京書籍は金沢や石川県が出ていないので、もうちょっと扱ってほしいと思いながら見ていました。

トータルでいうと、理科の実験の安全性や、若い先生方がこの教科書を用いながら自信を持って準備し、実験・観察を指導することを考えると、この中では東京書籍が比較的良いのではないかと思います。

それでは、評価に移らせていただきます。ここで票数が拮抗するようでしたら、もう一度、その発行者に絞って評価したいと思います。

—挙手—

教育長

それでは、東京書籍と啓林館に絞り、もう少し議論させていただきたいと思います。一応、東京書籍に全員の手が挙がりましたが、もう一度、啓林の方もご覧いただき、最終的に東京書籍で良いかどうか確認の意味で評価させていただきたいと思います。

教育委員

先ほど危険とおっしゃった実験は、具体的に何ページですか。

教育長

啓林館の4年生の198ページです。②で、できたペットボトルロケットを発射台に取り付けていますが、ロケットには普通、フィンという羽根が付いているのです。今は人工衛星を搭載するようなロケットなどは、だんだんそれがなくなりつつありますが。この教科書ではフィンが付いておらず、おそらくこのままロケットを飛ばすと、安定性がないので、どこへ飛んでいくか分かりません。ここにフィンがしっかりあった方が安全性は担保できるだろうと思います。

教育委員

理科に関しては5者でそれぞれ特色があるので、それぞれの長所を強調すればいいのかとは思いますが、繰り返しになりますが、既習事項を踏まえた学習の展開ということを考えると、東京書籍が丁寧に書かれているのは、啓林館との大きな違いではないかと思います。

教育委員

啓林館のQRコードがとても充実していて、内容についてもいろいろな

ことができるな、画期的だなと思ったので、東京書籍でも啓林館でも、私は皆さんが選ばれた方に従おうと思っていました。しかし、先ほど申し上げたように、安全面で気掛かりな事項が一つできたので、いくら良くても、それが分かっているながらこの教科書を子どもたちのために選ぶことは難しいと思います。また、東京書籍は保護者と先生方へのメッセージの中に、きちんと疑問を見つけ、比べ、創意工夫し、結果から何かを出し、予想と違っていても何だろうと考える子どもを育てますと言ってくださっているので、それを期待して東京書籍を選びたいと思います。

教育長

6年生でプログラミングが新しく入ってきているので、シールを貼りながら頑張りましょうということが啓林館の181ページの活動のところで出ています。このようなところが東京書籍との活動の在り方の違いかと思えます。プログラミングの活動の充実度などを見ていくと、先ほど調査委員長も比較されていましたが、どちらかというところ東京書籍が良いのではないかと思います。

それでは、先ほど東京書籍が7人、啓林館が4人ということで、東京書籍に全員が賛成したわけですが、東京書籍を採択することによってよろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

教育長

それでは、理科は東京書籍を採択させていただきたいと思います。

[生活：審議]

教育長

最後の種目である生活科の審議に入ります。生活科も7者とたくさんの発行者がありますが、それぞれご議論を頂戴しながら決めていきたいと思えます。

教育委員

保護者目線で見ただけの場合に、小学校のスタート時には、スタートカリキュラムのようなものが非常に分かりやすいです。おそらくこのあたりは保護者も興味深く見る部分ではないかと思えます。これが東京書籍は非常に見やすく、啓林館も同様に非常に分かりやすく書かれていると思えますが、どちらかといえば表現は東京書籍が良いのではないかと思います。

教育委員

生活科は、1年生で初めて学ぶときに、何をするのか、どんな教科なのか分かりにくい教科かと思えますが、最初に教科書を開いたときに、東京書籍は目次からこういうことをするのだなということが分かり、大日本図書は一瞬図工かなと思え、教育出版は分かりにくいと思えました。先入観もあるかもしれませんが、光村図書は少し国語と重なる部分があると思えました。日本文教出版は「何をするのか」という疑問から入って一番分かりやすいと思えました。導入のところがやはり大切で、この教科で何をするのか子どもに分かりやすいことが一つのポイントではないかと思えます。そういう意味では日本文教出版か東京書籍ではないかと思えます。

サイズの話が出たと思えますが、幼稚園・保育園で絵本を読んできた子どもたちへの配慮という点では、東京書籍がすっきりとしていて、しかも文字が大きく、親しみやすいのではないかと思えます。

教育委員

啓林館で先ほど話題になったロケットですが、生活科の下の69ページでは、きちんと羽根が付いています。これは袋ロケットですが、生活科ではちゃんと学んでいながら、なぜ理科では羽根がないのか、統一性・関連性が失われているのかと思って見ていました。

教育委員

東京書籍は大判ですが、大判の良さを生かして作られているのではないかと思います。それから、生活科の中で、いろいろなことを調べたりまとめたりするときに、ワークシートを作る機会がかなり多いと教科書を見ながら思ったのですが、そのワークシートの記述の仕方について、他の発行者と見比べて丁寧に書かれているのが東京書籍だと思います。他の発行者は4、5行で簡単なまとめを例として挙げているものがほとんどですが、東京書籍は、これまで見つけたことは何で、もっと調べたいことは何なのかをしっかりと例示しながら教科書が作られています。1・2年生段階では、学習したことをどうやってまとめるのが大切だと思いますので、東京書籍が秀でていないのではないかと思います。

教育長

生活科では活動も大切になりますが、教科書を開いたときに、この教科書でどんな活動をするのががすっと入ってこないといけないのではないかと思います。

前回の採択のときに光村図書から東京書籍に替わっているのですが、あのときは光村図書の教科書は写真がほとんどで、これは若い先生方には使えないだろうということで東京書籍に替わりました。そのあたりは、今回の光村図書はかなり改善されていると思いますし、ホップ・ステップ・ジャンプという学習の流れの中で、問題解決もかなり意識されています。特にホップのところでは、少し見つけづらいですが、ホップマークの右ページに問題解決を意識した学習課題が設定されていて、かなり力を入れて改善されたことが分かります。ただ、それと見比べても、ビジュアル的というか、子どもたちの「さあ頑張るぞ」という意欲を引き出すには、東京書籍の方が良いのではないかという感じを受けています。

教育委員

東京書籍も啓林館も、本当にいろいろなことに気を配って作られています。啓林館は、ところどころ保護者に「こんなことを注意してくださいね」というメッセージが出てきたり、多くの場所にQRコードがあり、きっといろいろな動画も見られるのだらうなという充実度があります。保護者向けのメッセージも温かさが伝わっていいと思います。

この2者を比べるとサイズが全然違います。やはり大きい東京書籍の方が、たくさん写真が入っていて、自分と同じ年齢の人がどんなことをしているのかが分かって、子どもたちが親しみを持ってくれるのではないかという気はしています。

教育長

それでは、評価を伺いたいと思います。

—挙手—

教育長

東京書籍が7票、啓林館が2票ということで、生活科は東京書籍を採択

	<p>することよろしいでしょうか。</p>
委員一同	<p>異議なし。</p>
教育長	<p>ありがとうございました。理科も生活科も啓林館が頑張っているという声も出ていました。公開される議事録をきっと読まれると思いますので、啓林館にエールをお送りし、次回頑張っていたきたいと思います。</p>
教育委員	<p>インターネットとの接続もすごく頑張ったと先ほどおっしゃっていたので評価したいです。たくさんのページにQRコードのマークがあるので、それを上手に使えると楽しい授業や家族との話もできるのではないかと思います。</p>
教育長	<p>ありがとうございました。それでは、本日予定していた5種目の審議が終わりましたので、確認させていただきます。社会科は東京書籍、地図は帝国書院、算数、理科、生活科は東京書籍で決定することよろしいですか。</p>
委員一同	<p>異議なし。</p>
教育長	<p>ありがとうございました。それでは、繰り返しになりますが、金沢市の令和2年度使用小学校教科用図書の審議を終了しましたので、全種目について確認させていただきます。国語は光村図書、書写は光村図書、社会は東京書籍、地図は帝国書院、算数は東京書籍、理科は東京書籍、生活科は東京書籍、音楽は教育芸術社、図画工作は日本文教出版、家庭科は開隆堂、保健は東京書籍、英語は東京書籍、道徳は日本文教出版ということで決定させていただきます。</p>

○ 議案第14号 令和2年度使用中学校教科用図書（「特別の教科 道徳」を除く）の採択について（学校指導課）

（説明の概要）今年度は、「特別の教科 道徳」を除き、令和2年度に使用する中学校用教科用図書の採択が行われる年であるが、学習指導要領の改訂により、令和3年度から新学習指導要領に基づいた教科用図書を使用することとなるため、採択された教科用図書の使用年限は4年間ではなく、令和2年度のみ1年間だけとなる。併せて、平成30年度の教科用図書検定において新たに合格した図書がなかったため、既に調査研究を行っている平成26年度検定合格図書等の中から再度採択を行うこととなる。

なお、平成27年度の教科用図書採択においては、平成26年度検定合格図書の見本本等を活用し、綿密な調査研究の結果、採択されており、また今年度、24の金沢市立中学校全てに現在使用している教科書について調査をしたところ、継続して使用することについての意見はなかった。

以上の事項を考慮した結果、令和2年度使用中学校教科用図書の採択については、5月の教育委員会議会で認めいただいたとおり、採択手続きを簡略化し、平成27年度に採択した教科用図書と同一のものを採択することをお諮りする。

なお、議案書の1ページには、平成27年度に教育委員会議において採択され、現在各学校で使用している教科書の一覧、および2ページからは平成27年度の採択理由をお示しした。

[審議]

教育長

中学校の教科用図書は来年が採択の年で、あと1年間ということになりますが、今ほどの説明について、ご意見を頂戴したいと思います。

教育委員

新たな学習指導要領の下での新しい教科書の編纂がこれから始まりますので、それを待っての新たな採択ということで差し支えないのではないかと思います。

教育委員

前回の採択のときに、本当にたくさんの時間を使い、教育委員の皆さま、教育長にはたくさんの教科書に目を通していただき、その結果採択された教科書だと思うので、これをもう1年使っていただけたらそれで十分ではないかと思います。

教育長

他の委員の方々も、同様のご意見ということでよろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

教育長

それでは、採決に移らせていただきます。議案第14号は原案のとおり承認することにご異議はございませんでしょうか。

委員一同

異議なし。

教育長

ありがとうございます。全会一致で、議案第14号は原案のとおり承認することとなりました。

これで、予定していた議案第14号についても審議を終わらせていただきたいと思います。

3日間にわたり、委員の皆さまには熱心なご審議を頂き、本当にありがとうございました。以上をもちまして、教科書採択に係る教育委員会議を終了します。

以 上